

第三国集団研修 事前調査団 報告書

ザンビア 熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール

1999年7月

国際協力事業団

第三国集団研修 事前調査団 報告書

— ザンビア 熱帯地域家畜疾病診断・ 予防とコントロール —

1999年7月

JICA LIBRARY



J1155814(5)

国際協力事業団
研修事業部

33
712
712
RARY

研 三
J R
99-22

序 文

第三国集団研修事業とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤を持つ同一地域内の開発途上国を対象に、我が国技術協力事業によって技術移転が図られた開発途上国を研修実施国として選定し、当該地域内の周辺途上国からの研修員受入を実施し、より現地の事情に適合した技術・知識の移転及び開発途上国間協力（南南協力）の推進に寄与するとともに、将来、研修実施国が独自に研修員受入事業を実施できるよう協力することを目的としています。

この事業は途上国自身のイニシアティブにより、当該途上国の研修実施機関が我が国の資金的、技術的支援を得て実施するもので、1974年度にタイのコンラート養蚕訓練センターで始めて実施されて以来、実施件数は増え続け、1999年度には136件の実施が計画されています。

ザンビア第三国集団研修「熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール」は、南部アフリカ地域における獣医師を対象にした家畜衛生分野の人材育成を目指しています。

本報告書は、同研修実施の妥当性・可能性を総合的に評価すべく、当事業団が平成11年6月22日から7月7日までザンビア・ボツワナでの調査を中心に派遣した事前調査団の調査結果を取りまとめたものです。

最後に、本調査団の派遣に際し、ご協力を賜った在ザンビア及び在南アフリカ共和国日本大使館、ザンビア、南アフリカ共和国及びボツワナ側政府関係機関に対し、深い感謝の意を表する次第です。

平成11年7月

国際協力事業団
研修事業部長



1155814 [5]

ザンビア第三国研修事前調査「熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール」
報告書目次

序 文
目 次

1. 事前調査団の派遣.....	1
1-1 派遣の経緯と目的.....	1
1-2 調査団の構成.....	1
1-3 調査日程.....	2
1-4 主要面談者.....	3
1-5 調査団対処方針（案）.....	3
2. 要請の背景.....	3
2-1 周辺国の研修ニーズ.....	3
2-2 実施国の当該分野の状況.....	3
3. 協議結果.....	6
3-1 コース名.....	6
3-2 研修の目的.....	6
3-3 到達目標.....	6
3-4 協力期間.....	6
3-5 時期・期間.....	6
3-6 カリキュラム.....	6
3-7 割当国.....	6
3-8 定員.....	7
3-9 応募資格.....	7
3-10 研修実施機関.....	7
3-11 経費分担.....	7
3-12 専門家派遣.....	8
3-13 その他実施手続き.....	8
4. 研修実施機関の概要.....	8
4-1 研修実施機関の組織および事業概要.....	8
4-2 ザンビア側の経費負担.....	9
4-3 施設・機材の保有状況.....	9
4-4 研修運営能力.....	9
5. 第三国研修実施の妥当性.....	10
6. 第三国研修実施上の留意点.....	10
7. 団長所感.....	11
8. その他（南ア・ボツワナでのニーズ調査結果）.....	12
別添	
1 第三国研修要望調査表.....	15
2 調査団討議議事録及びザンビア大学作成協議議事録.....	21
3 1999年度 G.I.（案）（経費（案）含む）.....	41
4 2000-2003年度 研修テーマ（案）.....	51

1. 事前調査団の派遣

1-1 派遣の経緯と目的

ザンビアは約320万頭の牛を保有する牧畜国であるが、家畜疾病等のため生産性が低く、畜産物を輸入している。また、獣医師の数が極端に少なく、家畜衛生対策が遅れている。この状況を打開するため、ザンビア政府は、ザンビア大学に獣医学部を新設し、獣医師の養成を図ることとし、この計画について1982年に我が国に対し、無償資金協力及び技術協力を要請してきた。我が国の協力の結果、概ね当初の目標である獣医師養成の獣医学部教育制度確立を達成した。

上記学部において、1985年より12年間半にわたり実施してきたプロ技協の成果を踏まえ、周辺国への家畜衛生分野の技術を移転することは、生産性の低い南部アフリカの畜産業の発展のみならず、人畜共通伝染病の予防並びに総合的な疾病コントロールを可能にする手段であるため、「ザ」政府は平成11年度新規案件として第三国研修の要望を我が国に提出した。

これらの状況に鑑み、1999年6月に当該第三国研修の実施に関して、「ザ」国研修実施予定機関の人員・予算・組織等の実施能力を確認し、研修内容、機関および我が国の協力の枠組みを協議し、その結果を協議議事録(R/D)案として取りまとめ、右案をミニッツにて確認することを目的とした事前調査団を派遣するに至った。

また、割当候補国であるSADCの畜産担当国であるボツワナを訪問し、南部アフリカにおける当該分野のニーズ聞きとり調査を併せて行った。

なお、当該案件は先に開催されたTICAD IIの東京行動計画の一環として、南部アフリカ地域への協力が期待されるものである。

1-2 調査団の構成

氏名	担当分野	所属先
1 多田 融右	団長／総括／家畜衛生	JICA 国際協力専門員
2 井上 明美	研修計画	JICA 地域部準備室 アフリカグループ 職員

1-4 主要面談者

別紙リストの通り (M/M APPENDIX II 参照)

1-5 調査団対処方針

ザンビア側より提出された要望調査表及びG.I. (案) に基づき、別添の通り対処方針をまとめた。

2. 要請の背景

2-1 周辺国の研修ニーズ

アフリカにおける畜産は、口蹄疫、牛肺疫など極めて感染力が強く国際的に重視される疾病、節足動物により媒介されるタイレリア症やトリパノソーマ病など広範に分布し大きな被害を与えている疾病、狂犬病、牛結核、炭疽など人畜共通で公衆衛生上極めて大きな問題となる感染症などが数多く存在し、発展のための大きな阻害要因となっている。

SADC諸国においては、家畜衛生分野の教育・訓練を実施できる機関はきわめて限られている。大学獣医学部が存在するのは域内14カ国のうち、南アフリカ、モザンビーク、タンザニア、ジンバブエ、ザンビアの5カ国に過ぎず、効果的な卒業教育が行える教育機関は限られている。畜産や防疫の重要性から各国とも行政組織として獣医研究所や獣医ラボは持っているものの、南アを除いては技術的にも機構的にも、自前による研修などを通じた人材育成を行える体制にはなっていない。

各国は学位取得を含めた家畜衛生従事者の人材育成の多くを西欧先進国への留学・研修に依存してきた。EU支援によりSADC地域獣医学部として創設されたジンバブエ大学獣医学部は、近隣諸国からの留学生を対象に学部教育および一部修士課程教育を行っているが、域内の獣医・家畜衛生技術者のブラッシュアップのための卒業技術研修は実現していない。

1993年には南アに黒人政権が発足し、域内諸国は様々な分野で急速に相互交流や結びつきを強めている。圧倒的な技術資源、実績、伝統を有する南アのプレトリア大学獣医学部は域内の人材育成についても、積極的にリーダーシップを担おうとしており、1996年からサブサハラ諸国を対象に診断技術を主とした実務者向け研修コースを開設し、また現在計画中のSADC共通修士課程の企画調整の中心ともなっている。

このような状況下、域内の限られた関係機関や人的資源を有効に活用した、国際的な防疫対策への取り組みや、広域を対象とした家畜衛生分野協力の必要性に対する域内諸国の認識も高まっている。一方において、プレトリア大学が実施するコースはあるものの、家畜衛生対策や防疫対策に従事する人員に対して適切かつ効果的な研修を実施できている機関は域内諸国で絶対的に不足しており、当該分野の研修ニーズは高い。

2-2 実施国の当該分野の状況

ザンビアにおける農業は GDPの約20%を占め、銅と並ぶ重要産業であり、畜産はそのほぼ35%となっている。農業人口は国民の約50%に達し、約25%の世帯が牛を保有する。ザンビアは広い土地に恵まれており、適切な飼養管理、技術普及、防疫・健康管理、市場開発が行われれば、畜産の開発ポテンシャルは極めて高いとみなされている。しかしながら、国民一人当たりの肉消費量は2.4kgにとどまり、これはアフリカにおける平均の約半分には過ぎない。牛の飼育は多くの地域で、肉用以外に牽引や肥料に利用され、地位の象徴や貯蓄、あるいは学費や冠婚葬祭その他のための現金収入源、さらに飢饉の時のための保険としての意味も有している。

ザンビア第三国集団研修「熱帯地域家畜疾病の診断・予防とコントロール」事前調査対処方針(案)

99.6.15版 JICA地域部準備室 アフリカ6.

項目	G.1. (案) 内容	我が方の対処方針(案)
1. コース名	<ul style="list-style-type: none"> ● (和) 熱帯地域家畜疾病の診断・予防とコントロール ● (英) Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases 	● G.1. (案) の通り
2. 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 本研修の実施を通して、熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール分野における課題に対処するための知識・技術が向上し、参加国の社会経済的地位の向上に寄与することを上位目標とする。 ● SADC諸国の自然史及び一般的な家畜伝染病にかかる知識の向上 ● 一般的な家畜疾病の正しい診断能力の向上 ● 家畜疾病の予防とコントロールにかかる十分な技術・知識の習得 を目標とする。 	● G.1. (案) の通り
3. 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 45日間 ● 初年度は第4四半期に実施希望 ● 研修実施期間は5年間(1999~2003年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な研修カリキュラム、参加者、資格要件等の整合性を確認する。 ● 時期については、99年度については第4四半期に実施とするが、次年度以降は要確認。 ● 研修期間については、概ね要確認とする。 ● 実施年数については、5年間とする。
4. 研修期間	<ul style="list-style-type: none"> ● 1999年度は 原則 G.1. (案) の通り。 ● 各年毎にテーマを変える予定であるので、5年間のテーマ設定(案)を協議する。併せて、本邦・第三国専門家(講師)の有無についても確認する。 	● 1999年度は 原則 G.1. (案) の通り。
5. カリキュラム	● 別添 G.1. (案) の通り	● 1999年度は 原則 G.1. (案) の通り。
6. 割当国	● アンゴラ、ボツワナ、レント、マラウイ、モリシャス、モザンビーク、ナミビア、南ア、スワジランド、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ、コンゴ、セイシエル(SADC加盟国)計14ヶ国	● 割当国共通のニーズの有無、資格要件を満たす人材がいるかを確認する。
7. 定員	● 20名(周辺国各15名+実施国5名)	● 実施国より割当国優先。
8. 資格要件	<ul style="list-style-type: none"> ● 候補者に政府を通じ要請すること。 ● 当該分野にかかる研究所等に勤務している獣医師あるいは将来従事することが予想される者 ● (獣医大学職員、当該分野に関連する公的研究施設、それに関連する施設で勤務している獣医師の参加も可能) ● 英語に堪能であること。 ● 参加国の国籍を有すること。 ● 心身ともに健康であること。 	● 原則、G.1. (案) の通り
9. 研修機関	(和) ザンビア大学獣医学部 (英) The Samora Machel School of Veterinary Medicine, University of Zambia (SVM-UNZA)	● G.1. (案) の通り
10. 業務分掌	● 特に記載なし	● コスト負担については別紙参照 ● 通常コースと同様
11. 経費関係事務手順	● 特に記載なし	● 通常コースと同様
12. その他	● 特に記載なし	● 研修に必要な機材を確認する。(不足放棄、機種、使用状況他、要望の妥当性)

<詳細対処方針について>

とりわけ、研修経費についてUNZA（案）では下記の項目の経費負担をJICAに求めている。単価についてはケニアを参考とし、対応したい。

1. UNZA内部講師謝金について（ローカルコスト負担）
通常JICAで負担できない項目であるが、LLDCのザンビア負担は不可能と思われ、校討せざるをえない。
（要望調査時に大使館からのコメントに記載有り）
対応としては、
（1） 妥当な単価のベースラインを設定する。
→ザンビア大学講師の給与表等妥当と思われ根拠をもって単価を設定する。
時間数についても、根拠を示す資料を提出を依頼中。
あくまでも研修実施のための残業代との位置づけで支給（参考：ケニア教授クラス US\$30 / hr.）したい。
（2） 時間数については、毎年協議をして決定する。
→初年度は準備のための時間数が多いと考えられるが、次年度以降は減少させる。
各年度のテーマによって、準備時間数が異なるはずなので毎年事務所と協議をして決める。
2. Employment Feeについて
（1） 研修員受入等に係る庶務Etc.のための人件費のため、妥当な単価設定にする。
US\$50→US\$20（参考：ケニア単価）
3. Meeting Expenses
（1） 単価US\$50→US\$15（参考：ケニア単価）
4. Expendable Supplies
（1） 内訳を定める。
5. Curriculum development & production及び Publicity Cost
（1） 詳細内容を求める。
6. Bench Fee（予備費）
（1） 内容により、日本側の負担不可を説明する。
7. G.I.送付のチャンネルについて
（1） ザンビアの外交チャンネルで送付可能か、SADC事務局のチャンネルを活用できるのか確認する。
8. ミニッツ（案）署名者について
（1） 署名者について確認する。
9. 日本人専門家及び第三国外部講師の協力の必要性
（1） 研修内容と併せて確認する。なお、99年度は日本人専門家1名の要請あり（ダニ媒介病）。
10. 研修コース評価のあり方について
（1） 中間評価として3年目に見直しをする。
（2） 効果測定についてのザンビア側の手法確認する。
11. コース報告書様式について
（1） ザンビア側に説明し、確認する。

ザンビアには多くの重要で被害の大きい家畜疾病が広く見られている。なかでも、タイレリア病、バベシア病、アナプラズマ病などのダニ媒介病は被害も大きく、ツェツェ蠅が媒介するトリパノソーマ病は、汚染地域での牛の飼育を制限する要因ともなっている。また国際伝染病として重視される、口蹄疫や牛肺疫が発生しており、特に後者は近年アンゴラ国境から侵入したと見られ、タンザニア、ボツワナでも発生しており、南部アフリカの畜産を脅かすものとして重要な問題となっている。家畜における被害とともに人畜共通の感染症として重視される炭疽、ブルセラ病、牛結核、狂犬病などが広範に発生しており、他にもほとんどの感染症が存在し、畜産振興のための大きな阻害要因となっている。

ザンビア政府は1996年以来、構造調整計画、Agriculture Sector Investment Program (ASIP)のもと、行政機構の大幅な機構改革を進めようとしている。この計画に基づき、各種獣医サービスの民営化、地方分権化を進めようとしており、EUも獣医の民営化に伴う獣医師研修を支援している。行政レベルでの家畜衛生対策は現在農業省の Department of Research and Specialist Service が担当しているがその基本的役割は、主要流行病 (OIE List A) 対策においている。ザンビア大学獣医学部は、これらの政府の計画策定、評価および、獣医師の研修に参画している。

3. 協議結果

協議結果は下記の通りである。

3-1 コース名

- (和) 熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール
- (英) Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases

3-2 研修の目的

- 家畜衛生にかかる課題に対応可能な能力の向上を通じて、熱帯地域家畜疾病診断・予防とコントロール分野における知識・技術が向上し、ひいては参加国の社会経済地位の向上に寄与することを目的とする。

3-3 到達目標

- SADC諸国の自然史/家畜伝染病に対する知識の習得
- 家畜疾病に対する正しい診断能力の向上
- 家畜疾病の予防とコントロールにかかる実践的な技術・知識の習得

3-4 協力期間

- 1999年～2003年 (5年間)

3-5 時期・期間

- 45日間 (変更なし)
- 1999第4四半期 (10,11,12月) → (仮) 1999JFY (Japanese Fiscal Year) 第4四半期 (1,2,3月)
- *但し、(別添：R/D (案) ANNEXIIは11月研修実施で作成することとした。)

3-6 カリキュラム

別添：R/D (案) ANNEXIの通り

3-7 割当国

- SADC 14カ国の内、ホスト国であるザンビアを除いた13カ国
ボツワナ、マラウイ、モザンビーク、タンザニア、アンゴラ、南ア、スワジランド、コンゴ (民)、ジンバブエ、レソト、ナミビア、セイシェル、モーリシャス

3-8 定員

●15名(割当国からの研修員)→16名、3名(ザンビア)→4名

*ザンビア側より、ボツワナ、マラウイ、アンゴラについては特に家畜衛生に関する研修の必要性が高く、是非とも2名割当てたい。その他の国は1名で計算し、計16名としたい。

*調査団側より、第三国研修では通常ホスト国からの最大参加者数は他国からの参加者数の1/4以内と定められている旨を説明した。よって、仮に割当国の参加人数が16名/年に満たない場合でも、ザンビア国の最大参加者数はその参加者数の1/4で計算することとし、常に4名が割当るわけではないことを説明した。

3-9 応募資格

- 候補者は当該政府を通じ、要請すること
- 現在、当該分野に従事している者、または、将来、当該分野において従事することが見込まれる者
- 獣医師資格保持者または、畜産修士を持つ当該分野の研修機関あるいは研究機関職員
- 当該分野で3年以上の実務経験者
- 心身ともに健康な者

3-10 研修実施機関

●ザンビア大学獣医学部

(The School of Veterinary Medical, University of Zambia ;SVM-UNZA)

3-11 経費分担

コスト変更部分詳細は、以下の通りである。

(受入諸費)

- 1 研修員旅費：割当国定員15→16名に変更で計算
- 2 講師旅費：変更なし、(第三国専門家スキームを使用する場合は削除)
- 3 空港送迎：変更なし
- 4 日当(研修員)：46→47日へ
- 5 宿泊費(研修員)：47→46日へ
- 6 宿泊費(講師)：変更なし、(第三国専門家スキームを使用する場合は削除)
- 7 保険(研修員)：変更なし
- 8 保険(講師)：変更なし、(第三国専門家スキームを使用する場合は削除)
- 9 広報費用：広報費用は基本的に削除

電話等の通信費はOthersへ入れることで合意。E-mail活用の可能性についても言及したが、メール送信を行っても、反応のない国もあり、そのような国へは直接出向いて打ち合わせるか、ファクス、電話の活用が不可欠との説明を受けた。

しかしながら、JICA側では打ち合わせ旅費を負担できない旨を説明し、削除した。打ち合わせの旅費は削除する代わりに高コストの通信費を手厚くした。

US\$500→1,000へ。

(研修諸費) 単価については、アフリカ地域で同スキームを先立って実施しているケニア単価に合わせた。

1 外部講師謝金：@US\$50→30へ

2 内部講師謝金：@US\$50→30へ

時間数については、折り合いが付かず、本部持ち帰り検討とした。

3 庸人費：@US\$50→20へ時間数10時間→20へ

(講師のテキスト作成補助をする庸人費(タイピスト)を認めるかわりに、講師

のテキスト作成にかかる謝金は0とした)

4 研修旅行：変更なし

5 消耗品：Humidifier with Thermogram；US\$1,700は削除。それ以外の消耗資材は研修に必要と判断した。更に、9カリキュラム開発コスト（資料作成費）を全額削除する代わりに、同コスト中のステイショナリー費用等（US\$5,000）を Teaching Aid/Materials（US\$1,000）と合わせて、計US\$6,000とした。

よって、US\$20,000→US\$23,300

6 開・閉講式：@US\$50→15（ケニア単価に合わせた）

7 G.I.及び修了証書印刷：@US\$4→20、@US\$1→5

（調査した結果、実費のため、承認した。）

8 テキスト：変更なし

9 カリキュラム開発コスト：全て削除を日本側が主張したが、ザンビア側の同意が得られず、講師のテキスト作成費@US\$30*175hrのみそのまま記載した。

（持ち帰り検討事項）

10 その他：広報費から移動してきた通信費US\$1,000

メンテナンスコストについては変更なし。

*Bench Fee：当初日本側負担→ザンビア側負担へ変更

ザンビア側がSADC諸国貢献のためにザ大学側で負担することとした。

（研修経費x10%）

3-12 専門家派遣

●南ア・プレトリア大学、ジンバブエ大学、タンザニア・ソコイネ大学等域内関連機関から第三国講師派遣を希望している。

●ダニ媒介病の講師を日本から派遣する。

●上記とは別に、研修を円滑に立ちあげるため、99年8月に研修指導調査（1名）を研修実施前に派遣し、テキスト作成等研修実施準備の指導を行うこととする。

3-13 その他実施手続き

●G.I.送付・受入通知等外交ルートを使う部分は「ザ」大統領府担当

●その他の手続きは、UNZA担当

4. 研修実施機関の概要

4-1 研修実施機関の組織および事業概要

ザンビア大学獣医学部は1984年に初めての学生を受け入れ、獣医師養成のための獣医学教育を開始し、1988年の最初の卒業生から現在までに累計150名以上の獣医師を送り出している。学部長の下に各講座主任、大学院担当および学部教育担当のAssistant Dean となる Dean's Advisory Committee がもうけられ、最高意思決定機関となっている。講座は大講座制をとり、生物医学講座（解剖学、生化学、生理学、薬理学）、基礎臨床学講座（微生物学、病理学、寄生虫学）、疾病予防学講座（感染症学、臨床病理学、公衆衛生学、野生動物医学、鶏病学、疫学）、臨床学講座（外科学、内科学、繁殖学）を擁し、このほかに中央管理部門がワークショップ、セントラルサプライ、図書館、付属パドック、実験動物舎の管理運営に当たっている。学部の諸活動については、研究委員会、図書・編集委員会、安全管理委員会など各種委員会がもうけられ、Dean's Advisory Committee および学部長に報告する。

教官スタッフは、獣医学部発足以来多くの部分を我が国をはじめとする援助機関からの派遣専門家に依存してきたが、現在は現職ザンビア人教官21名およびザンビア大学独自雇用の外国人教官（インド系、ナイジェリア人）でほぼ運営をまかなっており、援助機関による長期の外国人専門家はいない（日本人専門家1名を9月に派遣の予定）。この他に、現

在10名以上の教官が修士または博士課程のため外国留学中となっている。

技官については、我が国プロジェクト協力期間中に20名を越える多くの技官を本邦にて研修しており、検査・実験手技を身につけている。

獣医学部の基本的活動は獣医師養成のための獣医学教育にあり、すでに十分な実績を上げてきている。大学院教育は修士課程をもうけており、博士課程は大学にあらかじめ登録した上で、5年以内に博士論文を提出し審査に合格することで博士号が授与される。大学院教育は、現状では大学独自の予算はなく、指導教官の手当を含めて、援助機関など外部からの資金に依存している。

研究活動は獣医学部に研究委員会が置かれ、方針の作成や調整を行うことになっているが、大学からの予算が無いこともあり委員会の活動としては低調である。ベルギー、スウェーデン、EU、IAEAなどの支援を受けた研究プロジェクトが行われており、1999年度からは文部省科学研究費による我が国関係大学との共同研究が発足の予定である。

学部内には付属クリニックと病性鑑定室がおかれ、学生の実習機会を与えるとともに、外部への獣医臨床サービスや病性鑑定サービスを有料で行っている。また疫学ユニットが1997年に設置され、疫学情報の収集・分析の体制を強化しようとしている。

研修事業としては、1991年から NORAD の支援も受けて TITP (Technical Improvement Training Program) を国内の技師などを対象に実施している。その内容はコンピューター操作技術、飼養管理技術などである。また現在ザンビア政府が進めている ASIPI による獣医サービスの民営化方針に対応して、獣医師のための研修プログラムの開発を EU から受託する形で行っている。

4-2 ザンビア側の経費負担

大学当局からの予算は学部教育を基本とする人件費に限られており、大学院教育、研究活動は人件費を含めて外部からの受託や資金援助に依存している状態である。また、獣医学部としては、臨床サービスや病勢鑑定サービス、コンサルタントサービスなど、学部教育を除く各種事業は、獣医学部の運営回転資金や人件費を得るための収益活動ともとらえている。したがって、今回第三国研修に対して、特別な予算手当や金銭的負担を大学側に求めることは不可能である。受益者負担を言うならば、獣医学部側としては研修参加各国による負担を要求することになろう。

4-3 施設・機材の保有状況

施設・機材については1997年までプロ技が実施され、その後も個別専門家が派遣されていることもあり、一部耐用年数を越えた機材を除き良好な状態で、研修に十分活用可能である。また試薬などについても特殊なものを除き在庫があり、利用可能である。

研修員の宿泊は大学構内に利用可能な宿舎があり、日常生活に必要な施設も構内に揃っている。

4-4 研修運営能力

ザンビアでは JICA 支援による第三国研修は、初めてのケースとなる。しかしながら、国内的には先に述べた TITP や、EU 委託による獣医師研修プログラムの開発を行っている。さらに、1997年には近隣諸国からの参加者を招いた国際シンポジウムを獣医学部主催で開催しており、これらの実績は、研修運営能力の存在を裏付ける材料である。獣医学部では、調査団来訪に先立ち、5年間の研修プログラムの素案を作成し、毎年度のコースコーディネーターを任命するなど、実施に向けた体制づくりを開始している。

獣医学部には、外国で博士課程留学を終えたスタッフもかなりおり、また近隣諸国の大学獣医学部から外部試験官を依頼される教官もいるなど、研修講師としての人材はかなり揃っている。しかしながら、若手教官が主体の獣医学部にとって、外部機関や近隣諸国の

大学や研究機関などからの講師招聘は、研修内容の充実や評価の向上、あるいは域内協力・連携の促進に重要な要素となることは確実である。

5. 第三国研修実施の妥当性

ザンビア大学獣医学部は1983年の無償資金協力を経て、1985年にプロジェクト方式技術協力が開始され、1997年までの12年半の間我が国の協力が実施されてきた。その設立経緯は、1989年代当初にFAOにより南部アフリカに獣医学部を設立する必要性が勧告されたことに始まる。その勧告に従い、まず、南部アフリカ地域獣医学部として、ジンバブエ大学獣医学部が設立された。しかしながら、ジンバブエ大学のみではザンビア国内のニーズをまかなえないとして、国内に必要な獣医師を育成するためにザンビア大学獣医学として日本の協力が開始された。

その結果、獣医師養成のための学部教育、およびザンビア人教官育成のための大学院教育の体制基盤整備にその焦点が当てられ、大きな実績と成果を上げた。

それらの実績と成果を活用するという観点から、ザンビア大学獣医学部内部の教育体制の基盤整備と持続的運営が軌道に乗ったところで、国内及び国際社会に対する獣医学部から外へ向かった貢献が期待されるのは、当然である。

通常、第三国研修は日本の協力により地域の先導的技術体制を築いた組織機関により、その技術を類似した条件におかれている他の発展途上国に波及させることを目的としている。そのため、当該第三国研修の実施は、我が国が協力してきたザンビア大学獣医学部による域内国際社会に対する貢献を支援するという観点から、獣医学部の活動の今後の分野を開くものとして重要な意義を持つものと見なしている。

また、先に述べた域内諸国の研修ニーズから、域内諸国における当該研修実施の意義は極めて高い。

さらに、98年に開催されたTICAD IIIにおいて南部アフリカへの協力の重要性が認められたことから、当該第三国集団研修をザンビアで実施し、周辺国との技術交流を深めることは同地域の安定と発展に役立つものと考えられる。

しかしながら、圧倒的な伝統・実績、技術蓄積、人材を有する南アのプレトリア大学が域内の技術分野での指導的立場にあるのは、衆目の一致するところであり、プレトリア大学の協力を得られない研修には違和感を生じる可能性がある。

すなわち、当該第三国集団研修は単に研修員の参加だけでなく、研修の実施運営過程において域内諸国との連携・協力の上で実施することにより、はじめてその妥当性が周辺諸国からも認められることになろう。

今までの第三国集団研修は、アジアでの実施を想定した研修が中心であった。つまり、当該地域中、先進的な国で周辺国を集めて「垂直型に効果を波及させる」というパターンであった。しかしながら、アフリカでは、南アフリカが突出しているとはいえ、ほぼ同レベルの国が並んでいる状態では、研修実施国が当該地域で同課題を抱える周辺国と協力して「水平に効果を波及させる」という研修を実施せざるをえない。アフリカでアジアと同様の方法を適用するのは、困難であり、域内協力という形を取ったほうが南部アフリカの発展のためにはよりよい方法と思われる。

6. 第三国研修実施上の留意点

ザンビアにおいて第三国研修を実施するのは、はじめてでありその手続きや実施方法に先方は慣れていない。さらに運営方針や経費支出についても我が方と先方の考え方には様々な差異が生じるであろうことは疑いない。研修の円滑かつ効果的な実施のためには、具体的な研修運営方法を指導助言する専門家の短期派遣が望まれる。

また、ザンビア国外務省は協力を確約したものの、それぞれの関係機関ではG.I.送付な

ど募集手続きなどに関して、外交ルートのみでは手続きの大幅な遅延が避けられず、適切な機関に確実に伝わらないとの危惧が大きい。これはアフリカの一般的な状況からもうなずける。したがって、募集・招聘手続きは、外交ルートを通じるとともに、実施機関と関係諸国機関との直接連絡を併せて行うことが望ましい。

第三国研修運営準備指導専門家 T/R(案)

資格条件： JICA事業に精通し、第三国研修実施の経験および家畜衛生分野協力の経験を有すること。

派遣期間：1999年8-9月（1-2ヶ月間）

執務場所：ザンビア大学獣医学部

執務環境：執務室有り。電話、パソコン、コピー機、FAX設備は執務室に有り。
インターネット接続は大学内LAN経由で可能。
過去の供与車両を業務用に占有可。

業務内容： 研修カリキュラムの詳細内容検討、指導助言。
カリキュラムおよび教材開発に関する指導助言。
G.I. の作成、送付、配布、研修員募集・選抜基準に対する指導助言。
外部講師の依頼、指導分野についての助言。
経費支出、経理事務処理方法に関する指導・助言。
専門分野によっては特別講義を依頼される可能性有り。
諸手続に関するJICA事務所との連絡調整、その他。

7. 団長所感

コストシェアリングについて、ザンビア側の参加者および研修実施機関の講師に対しては、JICAによる経費負担は出来ないことを説明したが、先方の納得を得ることは出来なかった。大学職員がコンサルタントサービスなどを外部から受注した場合、その報酬の20%を大学に納めることになっている。また獣医学部ではその性格から、獣医学部の施設機材を利用した外部サービスで得た報酬の50%を学部に納めるとの内規を定めている。大学教官の給与は、学部教育に携わる部分への報酬を基本とし、その他大学の基本的活動例えば、各種委員会や学部長や講座主任のワークロードに対して上積みされる形となっている。大学院教育や研究活動はこの基本報酬にカウントされず、別途資金を確保する必要がある。JICAの第三国研修のコストシェアリングの趣旨に基づけば、ホスト国政府が人件費部分の予算措置を行うべきだが、ザンビア政府および大学当局にその余裕はない。むしろ、大学当局は各学部・職員による収益確保活動を推奨する立場をとっている。

講師謝金に加えて、今回合意できなかった事項にカリキュラム開発にかかる報酬がある。JICAとして、教材作成に要する消耗品やタイピストなどの雇人費などは支出負担可能であるが、カリキュラムを開発するような、いわば知的生産部分に対応可能な予算項目は有していない。しかし、この部分については、Specialistとして業務を請け負うと考えている獣医学部教官にとって、譲ることのできない部分とみなされる。獣医学部は獣医サービス民営化に伴う獣医師研修のためのカリキュラム開発をEUから受託していることも背景にある。

第三国研修はわが国協力により、地域および途上国において先進的能力を身につけた機関が実施する研修を支援する形態をとっていることが多い。ザンビア大学獣医学部は、過去の協力により、特筆に値する施設・設備および教官人材の育成を果たしては来たものの、未だ設立されて新しい学部であり、周辺国の関係機関と比べ、特に突出した実力を持っているわけではない。財政的にも極めて苦しい状態にある。従って、ザンビア国が周辺諸国の人材育成を支援するというよりも、SADC諸国が協力して実施する域内の人材育成のための研修を我が方が支援するという考えの方が理解しやすい。この場合、研修事務局をザンビア大学におき、域内関係機関で共同運営する方法も考えられるであろう。また受益者負担やコストシェアリングを言うならば、直接の受益者となる研修参加国の負担を求めることも筋である。

SADC地域には、プレトリア大学、ジンバブエ大学、ソコイネ大学、エデュアルドモンドラネ大学があり、これら大学が共同で大学院教育（修士課程）を実施しようとしている。また英国はプレトリア大学、ジンバブエ大学、ザンビア大学の間で教官職員人材の相互利用を図る South-South Link Program を実施している。プロジェクト形成調査の報告書では、共通大学院とのデマケを協調しているが、例えば、プレトリア大学のProf. Coubrough が提案している、大学院の指導教官研修または大学院学生のために、積極的にこの第三国研修を活用するなど、他の域内協力プログラムと連携をとることも必要と思われる。

8. その他 （南ア・ボツワナでのニーズ調査結果）

標記研修に関し、割当国となる両国のニーズ調査結果は以下の通りである。

南アフリカ共和国プレトリア大学獣医学部 Prof. R.I. Coubrough 7月11日

南部アフリカ地域において、日本がこの分野における支援を行うことを歓迎する。プレトリア大学ではサブサハラ諸国を対象とした、主として各種診断技術についての研修コースを提供しており、また、現在計画中のSADC共通修士プログラムの企画調整を担当している。いずれもskill Orientedな内容を主眼としている。今回のザンビア大学における研修コースについては、実用技術の習得に重点を置いた上、かなり専門的な内容も盛り込まれるようなので、計画中のSADC修士課程との連携を重視したい。特に参加各国で学生の指導助言に当たるための人材を、この研修に参加させることも有効と思われる。いずれにせよ、今後とも当事者同士の連絡を密にとりながら、有効活用を図るようにしたい。ちょうど9月にタンザニアで、このSADC修士課程についての会合が域内の獣医関係大学の代表が参加して開かれるので、その場でも相談することにした（ザンビア大学からは Dr. Nambota、第三国研修初年度のコースコーディネーターが参加予定）。

ボツワナ共和国農業省獣医研究所(veterinary Laboratory) Dr.Asuanfu/Raipoledi、7月3日

ボツワナにおける畜産は重要産業であり、また畜産物の輸出国でもあることから、各種感染症の防疫や畜産物の残留化学物質をはじめとする品質管理は、きわめて重要となっている。このため家畜衛生分野の人材の育成確保が急務とされている。今回の第三国研修については、これと言った専門教育機関がない自国の家畜衛生関係者にとって、研修の機会を提供するものとして歓迎する。獣医研究所では人材育成計画を作成しているが、その内容は2-3年間にわたる留学（主に英国）において、ディプロマ、学士および修士の教育課程を履修する案としている。一方、比較的短期の研修については、特に組織残留濃度測定の実験技術など特定技術に関するPara-veterinarianの研修の必要性が高い。（このような先方要望や計画は、今回第三国研修計画とは合致しない。）

ボツワナ共和国農業省畜産局（SADC畜産分野調整担当）DR. RABOROKGWE, DR. FANIKISO、7月6日

SADC諸国には、家畜衛生分野の教育研修機関の無い国も多く、また継続的な知識技術の更新はきわめて重視される場所、今回の日本の援助による第三国研修は、現在ズンビア大学が提供している研修と併せて、きわめて有意義である。日本の支援は5年間ということだが、このズンビア大学が主催する研修に対し十分な実績と評価がメンバー国から得られれば、日本の支援の終了後もこの研修を土台にした研修コースの継続を検討することが可能となろう。ボツワナで諸国向けに開設している屠畜処理・食肉品質管理の研修は評判がよく、ドナーの支援も受けて継続的な実施につながっている。

G.I.の送付や研修員の募集手続きは外交チャンネルのみでは、多くの場合時間がかかりすぎるし、関係機関に的確に伝わらないことも多い。ズンビア大学獣医学部から直接各国の畜産局及び家畜衛生関係機関にも送付することが必要である。

JICA/JOCV ボツワナ事務所、筒井所長、7月3日

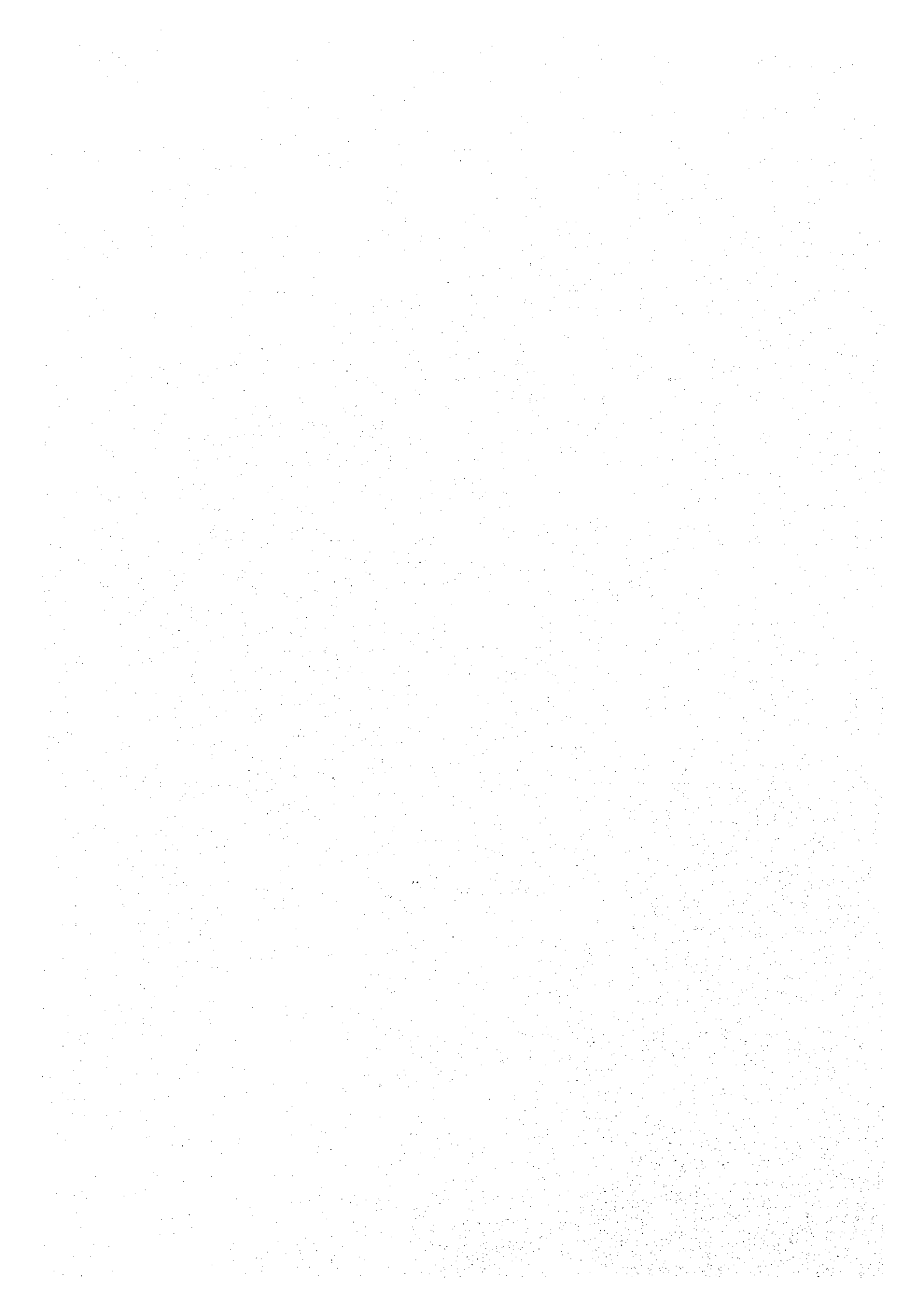
ボツワナは自国予算で多数の国外研修や留学を実施しているが、その研修成果が帰国後十分に活かされないケースが多い。特に高級人材としてはマネージメントの管理職者が重視され、現場技術分野の人材に対する評価が低い傾向にあるのも問題。

G.I.は、適切な機関に確実に伝わるようズンビア事務所経由で必ず事務所にも送付されるように願いたい。

SADC事務局、狩野専門家、7月6日

日本はSADCチャンネルを利用した協力をもっと考えたほうがよい。今回の第三国研修も二国間協力の枠を越えた内容をもっており、二国間技術協力スキームで困難な内容の資金用途についても、SADCを経由した援助が考えられるのではないか。

1. 第三国研修要望調査表



第 435 号

平成10年12月2日

外務大臣 殿

受付 号
 10.12.-8 A
 国際協力事業団

事務室
 58.10.09
 記入済

在ザンビア
中村 大使

件名

平成11年度才三用集団研修新題案件要望調査

引用公・電信

貴電合才19219号(10月10日付)

主管課(文書記号)

経協政

日付・番号

本件要望調査は了したのと調査票は別添
 送付申し付け。

なお、本案件は1985年より12年間に亘り
 協力と結付した果は「ザンビア大学農医学部(元
 政協)」の成果を広く南部アフリカ地域に
 裨益させるとして優良案件と認められ、採択
 のし 特段の配慮を頂きたい。

送付先:

付添添付

電写送付先:

付添空便(行)

省内写配布希望先:

付添空便(DP)

るが、調査票の中より抽出した通り、その割合
に研修費の一部負担は不可能であるとの特別
措置により金額我方負担をお願いしたい。

(2)

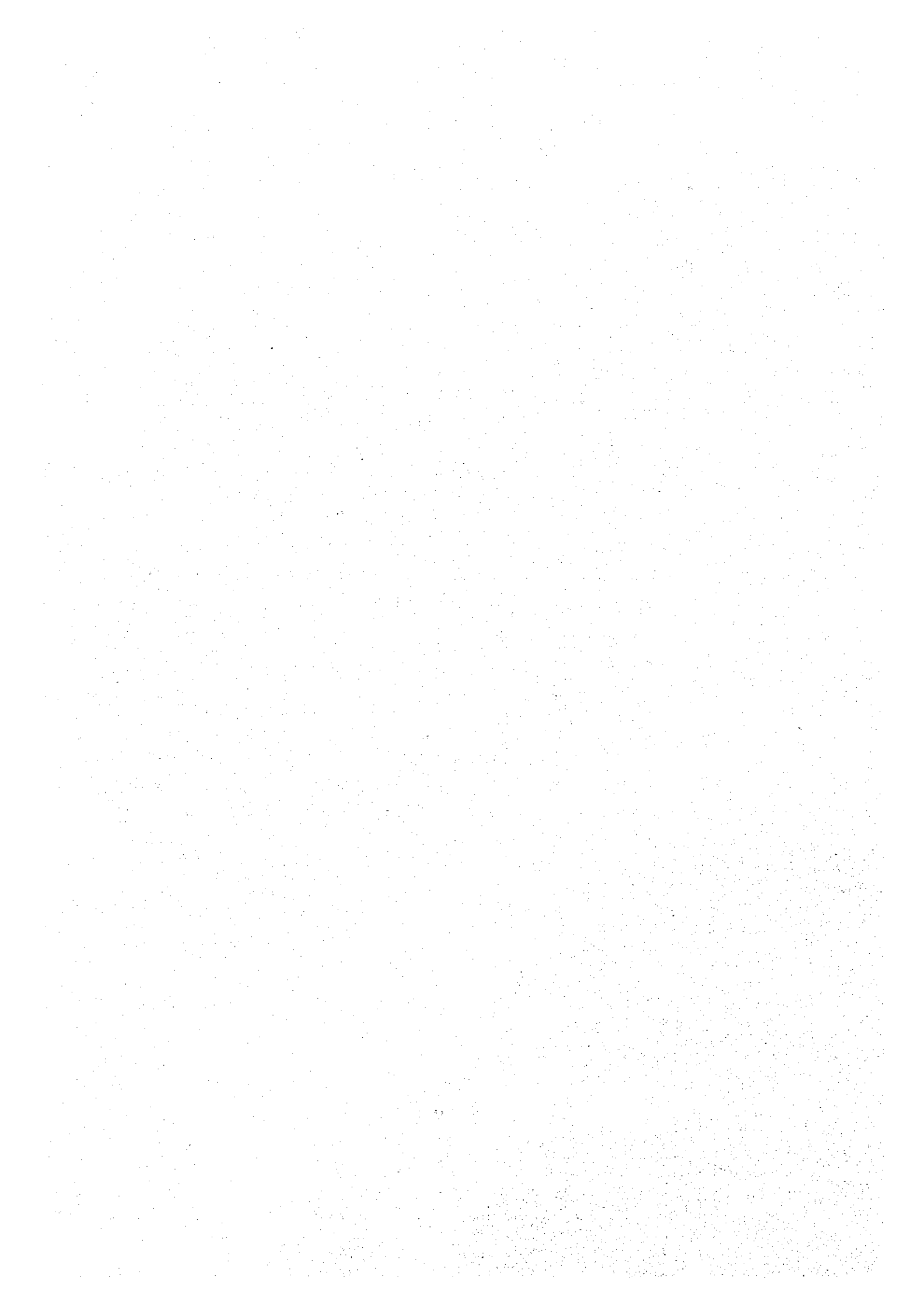
熱帯地域域域高技術力の研究

【実施国名：ナンビア】 1999年度 第三国集団研修 継続・新規案件【コース名：ナントロ-IV】 要望調査書(2/2) 外務省技術協力課

実施国	ナンビア		全講師数	30人うち、本研修担当講師数	6名
実施内容	施設への整備は良好。ただし、いくつかの器材は老朽化して交換が必要に感じている。				
研修体制	宿舎(週/有)	本研修に使用(しない/する)	適合を無償提供(する/しない)	宿泊費	シングル泊 US\$
研修内容	「有」の場合は、別途・研修経費整備器材要望調査書を記入すること 「有」の場合は、別途・研修経費整備器材要望調査書を記入すること				
研修費用の必要性	実施国側で経費負担が可能と考えられる項目(項目に○をつける)				
支出科目	金額	償還状況			
受入	US\$ 4,719	スラウイ(210x3), ボツワナ(348x3), ナンビア(455x3), モザンビーク(588x3) (98年11月現在)			
送料	US\$ 360	○			
日当	US\$ 16,360	①US\$ 30 x 2人 (=周辺国定員) x 46日 (=研修日数+1)			
宿泊費	US\$ 28,200	②US\$ 50 x 2人 (=周辺国定員) x 47泊 (=研修日数+2)			
保険料	US\$ 2,400	③US\$ 200 x 2人 (=周辺国定員)			
小計	US\$ 52,239				
外部講師謝金	US\$ 1,000	④US\$ 50 x 2人 x 10時間			
現地雇人員	US\$ 2,500	⑤US\$ 50 x 5人 x 10日			
現地交通費	US\$ 1,200	⑥US\$ 100 x 2人			
消耗品購入費	US\$ 10,000	⑦US\$ 50 x 50人 x 2回(開・閉講式)			
会議費	US\$ 5,000	⑧US\$ 4 x 20部 + 20部 @ US\$ 1 x 20部			
GI-弊了証書印刷費	US\$ 100	⑨US\$ 50 x 20部 (=研修員数(+α))			
教材作成費	US\$ 1,000	「その他」の印刷費			
その他	US\$ 1,500	実験室使用料 US\$ (100 x 15) = 1,500			
小計	US\$ 22,300				
合計	US\$ 74,539	3,060			
先方コストシェアリングの可能性	上記経費のうち、4%程度のコストシェアリングが可能 参加(15%)のコストシェアリングは困難なため、SADCによるナンビア側の負担金支援を検討中。				
優先順位	要望国	/	件数	/	大使館
大使館の意見	JICA在外事務所: / 件中 / 位				
JICA在外事務所の意見	我々も、協力に必要とされた人材と施設を活用し、その効果を広く南部アフリカ域内に裨益させたいと、その条件を提示した。但し、「市」側の財政難は深刻であり、尚確率負担は不可能と判断し、特別措置を考慮したい。				
本邦記入欄	2002年の成果を活用し、周辺国への貢献(対)を促すための、不透明な負担と見做す。100%、20%の非対称に、いい財政事情を鑑み、2年次以降も上記以上のコストシェアリングは困難と判断し、日本側による特別措置を不可避とする。				
公債	1998年	月	日	No.	備考

1. 申請国名		ザンビア							
2. コース名		第三国研修 熱帯地域家畜高熱病の診断・予防とコントロール(継続・送受)							
3. 指導科目	和文	タニ媒介病 (15字以内)							
	英文	Tick-borne disease							
4. 分類		中分類	小分類						
5. 配属先機関 (委請機関)	和文	ザンビア大学獣医学部							
	英文	School of Veterinary Medicine, University of Zambia							
6. 要請人数及び派遣期間		短期	1名	2ヵ月	6. 任期	1ヵ月			
7. 派遣希望時期		1999年度 第3回研修 (99年11月)							
8. 正式要請書		有 (年 月 日付往復 ・ 電 ・ JICA業務公債第 号) (無)							
9. 要請背景及び派遣目的		(要請背景) 1985年より12年半にわたり実施してきた7つの技術協力の成果を踏襲し、 第三国集団研修に1回参加した家畜衛生分野の技術移転(3行) (派遣目的)は意義が深い。 研修講師							
10. 過去の派遣実績(短期・長期含む)		有 (今回 回目の派遣) (無) 第三国集団研修へは初の派遣							
11. 指導内容(専門家業務の範囲・内容を具体的に記載。必要に応じて補足説明を添付のこと。)		タニ媒介病全般に関する総合的診断法について講義(3行)他、実験室診断技術及びサンプル採取方法等を指導する。							
12. 業務の主たる形態		助言	計画策定	研究開発	審査評価	技術指導	教育訓練	運営管理	その他
13. 要求される技術レベル (資格・経験年数)		獣医師, Ph.D. 教育/研究経験10年以上							
14. 要求される言語及びレベル		英語 (英語でも可・不可)							
15. 年齢制限		有 (50才以上 (以下) 理由 野外への派遣には体力が必要・無							
16. リクルート先の希望		有 () (無) 官 民							
17. 受入機関の状況		免税・免費:	有 () 無	献務室:	有 () 無	公用車提供:	有 () 無		
18. 先方政府の優先順位		/ 件中 / 位 (第三国集団研修に係る専門家派遣要望は1名のみ)							
19. 大使館の意見		我々国に学位取得した教授陣が多く、実力的には十分な能力と備えを有していると思われ、コースの総合アドバイザーとして存在が求めらる。優先度 (A) 高い B 普通 C 低い 派遣方針検討願った							
20. JICA在外事務所の意見		標記第三国研修の内容と一致せず、効果を高めるためには当該分野の日本人専門家の派遣は必要性が高いと判断した。優先度 (A) 高い B 普通 C 低い							

2. 調査団討議議事録及び ザンビア大学作成協議議事録



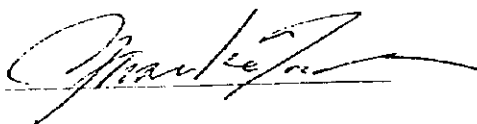
**MINUTES OF MEETING BETWEEN
THE JAPANESE PRELIMINARY SURVEY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF ZAMBIA
ON
THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME**

The Japanese Preliminary Survey Team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Yusuke TADA, visited the Republic of Zambia from June 23rd to June 30th, 1999 and had a series of discussions with the School of Veterinary Medicine, University of Zambia (hereinafter referred to as "SVM-UNZA") and other relevant Government authorities, with respect to the framework of a training course in the field of Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases under JICA's Third Country Training Programme to be conducted at SVM-UNZA and, to the desirable measures to be taken by both Governments to ensure the successful implementation of the course.

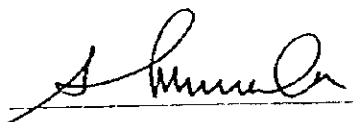
Both sides drafted the Record of Discussions attached as APPENDIX I, and agreed to recommend to their respective Governments that necessary actions should be taken in order to ensure the successful implementation of the training course.

A list of attendants at the meetings is attached as APPENDIX II.

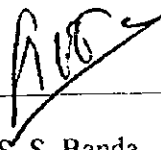
LUSAKA, 29th June, 1999



Dr. Yusuke TADA
Head of the Japanese
Preliminary Survey Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)



Prof. M. Chanda
Vice-Chancellor
University of Zambia
The Republic of Zambia



Mr. S. S. Banda
Chief Economist
Ministry of Finance and Economic
Development
The Republic of Zambia

**RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY IN
THE REPUBLIC OF ZAMBIA
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF ZAMBIA
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME.**

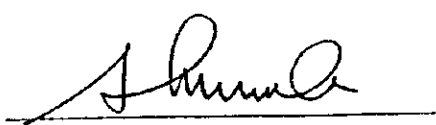
The Japanese Preliminary Survey Team, organised by the Japan International Co-operation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Yusuke TADA, visited the Republic of Zambia from June 23 to June 30 1999 and had a series of discussions with the School of Veterinary Medicine, University of Zambia (hereinafter referred to as "SVM-UNZA") and other relevant Government authorities, with respect to the framework of a training course in the field of Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases under JICA's Third Country Training Programme to be conducted at SVM-UNZA and, to the desirable measures to be taken by both Governments to ensure the successful implementation of the course.

Based on above discussions, the Resident Representative of JICA, Zambia Office and the authorities concerned in the Government of the Republic of Zambia, agreed to recommend to their respective Governments, the matters referred to in the documents attached hereto.

LUSAKA

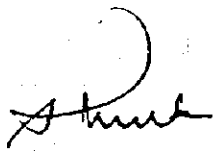
1999

Mr. Mitsuo ISHIKAWA
Resident Representative
JICA Zambia Office
Japan International
Cooperation Agency (JICA)



Prof. Mutale CHANDA
Acting Vice Chancellor
University of Zambia

Mr. S. S. BANDA
Chief Economist
Ministry of Finance and
Economic Development
The Republic of Zambia

SS-
3/1


ATTACHED DOCUMENT:

The Government of Japan and the Republic of Zambia will co-operate with each other in organising a training course in the field of Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases, (hereinafter referred to as "the Course") under JICA's Third Country Training Programme.

The Government of Republic of Zambia will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from Japanese fiscal year (JFY) 1999 to JFY 2003 subject to annual consultations between both Governments. The Course will be conducted in accordance with the following:

1. TITLE

The Course will be entitled "Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases".

2. PURPOSE

The purpose of the course is to provide the participants with an opportunity to improve their knowledge and skills in the field of Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases and, through the resultant increased capacity to deal with livestock health problems, improve the socio-economic status of the people in the participants' own countries.

3. OBJECTIVES

At the end of the Course, the participants are expected to have:

- 3-1 Improved knowledge of the natural histories and epidemiology of the respective major livestock diseases in SADC countries;
- 3-2 Improved their capacity to correctly diagnose the major livestock diseases
- 3-3 Acquired enhanced practical skills and knowledge of control and preventive techniques generally and of the said diseases and thus to have increased their capacity to control and prevent these diseases;

4. DURATION

The duration of each component of the Course will be approximately forty-five (45) days and the Course for JFY 1999 (hereinafter referred to as "the first Course") will be held in the last quarter of JFY 1999.

5. CURRICULUM

Tentative curriculum of the first Course is attached as Annex I.

97

55

Ahmed

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to apply by nominating applicant (s) for the Course:

Botswana, Malawi, Mozambique, Tanzania, Angola, South Africa, Swaziland, Congo DR., Zimbabwe, Lesotho, Namibia, Mauritius, Seychelles.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed sixteen (16) in total. And the number of participants from the Republic of Zambia shall not exceed five (4).

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are:

- 8-1 to be nominated by their respective Governments in accordance with procedure stipulated in 10-1 below.
- 8-2 to be presently engaged or expected to be engaged in the future in the Diagnosis, Control and Prevention of livestock disease,
- 8-3 to hold a veterinary degree or be a staff member in a veterinary diagnostic, training or research institution while holding a degree in animal science.
- 8-4 to have practical experience of more than three (3) years in the Diagnosis, Control and Prevention of livestock disease,
- 8-5 to be in good health, both physically and mentally, in order to complete the Course.

9. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be conducted at the School of Veterinary Medicine, University of Zambia ("SVM-UNZA") in Lusaka, Zambia.

10. APPLICATION PROCEDURE

- 10-1 A Government applying for the Course on behalf of its nominee(s) Shall forward five(5) duly filled-in copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of the Republic of Zambia through diplomatic channels not later than sixty (60) days before the commencement of a Course.
- 10-2 The Government of the Republic of Zambia will inform the applying Governments through diplomatic channels, whether or not the

Handwritten initials and signature:
M
SS
Shur

Applicant(s) is/are accepted to the Course not later than thirty (30) days before the commencement of the Course.

11. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN AND THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF ZAMBIA

In organising and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country.

The schedule of the first Course implementation is attached as Annex II.

- 11-1 The Government of the Republic of Zambia
11-1-1 through the appropriate organ at Cabinet Office :
- (1) To forward G. I. to the Governments of invited countries through its diplomatic channels
 - (2) To receive application forms and forward them to SVM-UNZA
 - (3) To notify the results of the selection of participants to the Respective Governments through its diplomatic channels.
- 11-1-2 SVM-UNZA
- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I
 - (2) To draft and print the General Information brochures (G. I.)
 - (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/ instructors for the Course
 - (4) To provide its training facilities and equipment for the Course
 - (5) To select participants for the Course and notify Cabinet Office and JICA Zambia Office (hereinafter referred to as "the JICA Office") of the results
 - (6) To arrange accommodation for the participants
 - (7) To arrange international air tickets for the participants from invited countries and meet and see them off at the airport
 - (8) To arrange local study tour (s) as part of the Course
 - (9) To take budgetary measures to cover the cost of conducting the Course, excluding the expenses financed by the Government of Japan. A tentative estimate of expenses for the first Course is attached as ANNEX III

SS
Shind

To bear some portion of the expenses, to be consulted between both Governments each year.

- (10) To issue certificates to the participants who have successfully completed a Course component.
- (11) To submit a report to the JICA office within thirty (30) days after the completion of the Course component
- (12) To submit a statement of expenditures with receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditure stated above within thirty (30) days after the completion of the course component
- (13) To co-ordinate any matters related to the Course

11-2 The Government of Japan

- (1) To dispatch Japanese short-term expert(s), in accordance with normal procedures of its technical cooperation scheme, who will give assist UNZA in delivering some of the lectures. This, however, is subject to the JICA budget available for this purpose and to the number of suitable expert(s) in Japan. UNZA is expected to inform the JICA office of requests for JICA short-term expert(s) not later than the annual Consultation
- (2) To bear some portion of the following expenses, to be consulted between both Governments, through JICA.
 - (a) Expenses relevant to participants from invited countries and external lecturers such as international economy class air fare, accommodation, per-diem and medical insurance premiums
 - (b) Expenses relevant to UNZA such as honoraria for lecturers, employment fee, expendable supplies, meeting expenses, G. I. and certificate printing, text books and others.

12. PROCEDURE FOR REMITTANCE AND EXPENDITURE

Remittance of funds for expenses to be borne by the Government of Japan and the expenditure thereof will be arranged in accordance with the following procedures:

- 12-1 UNZA will open a bank account in the Republic of Zambia to receive the funds remitted by JICA, and inform the JICA Office of the name of the bank, the account code number and the name of the account holder.

Handwritten initials and signature:
97
SS
Ahmed

- 12-2 UNZA will submit to the JICA Office a budget estimate for the expenses to be borne by the Government of Japan not later than sixty (60) days before the commencement of the Course
- 12-3 JICA will assess the budget estimate and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 12-1 above within thirty (30) days after the receipt of the budget estimate
- 12-4 UNZA will submit to the JICA Office a statement of expenditure within thirty (30) days after the completion of the Course component
- 12-5 In case there is any unspent amount, UNZA will reimburse the same to JICA in accordance with the advice given by JICA.
- 12-6 When requested by JICA, UNZA will make available for JICA's reference all the receipts and other documentary evidence necessary to verify the expenditures stated in 12-4 above

13. OTHERS

This attached document and the following Annexes attached hereto shall be deemed to be part of the Record of Discussions:

- ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course (for JFY 1999)
- ANNEX II : Tentative Schedule of Course Implementation (for JFY 1999)
- ANNEX III : Tentative Estimate of Expenses for the first Course (for JFY 1999)

97
SS
Shind

ANNEX I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE "TICKS
AND TICK-BORNE DISEASES FOR JAPANESE FY 1999

Date	Day	Subject (necessary days)	Description
		<i>Arrival</i>	-Pick-up from the airport -Accommodation/ Welcome reception
		Registration and Orientation (1 day)	-Briefing on course program -Overview of the Institution
		Country reports (2 days)	-Participants' presentations on Tick-borne disease and control situation in respective countries. -General discussion
		Acarology (5 days)	-Bionomics (biology, ecology, distribution) -Field trip for tick collection -Laboratory examination/ identification -Host-tick interactions, Immunology/ resistance -Control
		Theileriosis and Babesiosis (10 days)	-Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention -Latest technology for diagnosis/ control (PCR, Vaccines, Transgenic model, etc)
		Other important tick-borne diseases (10 days)	-Bacterial, -Rickettsial, -Viral: Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention -Field trip
		Communication and Extension (2 days)	-Inter-personnel Relations, Public relations, -Extension activities
		Community based/ Participatory Approach for disease control and prevention (3 days)	General discussion Study tour
		Course Evaluation (2 days)	Evaluation report Closing ceremony
		Departure of Participants	Drop at the Airport

ANNEX II

Tentative Schedule of Course Implementation for JFY 1999

MONTH	ZAMBIAN SIDE	JAPANESE SIDE
July, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Preparation of G.I. 3. Distribution of G.I. and Application Forms 	Signing of Record of Discussions
August, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Form A-1 2. Submission of Budget Estimate 3. Opening of Bank Account 	
October, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Receipts of Application Forms 2. Selection of Participants and Notification of the Result 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expenses 2. Submission of Form B-1
November/ December, 1999	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of the Course 2. Submission of the List of Participants 	Dispatch of Expert(s)
January, 2000	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report 	

37
SS
Shuel

ANNEX III

Budget Estimate for JFY 1999 to be borne by the Governments of
Japan and The Republic of Zambia

ITEMS OF EXPENSE	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE	ZAMBIAN SIDE
I. INVITATION EXPENSES			
1. Air fares - students (round trip)	@ US\$400 x 16 persons	US\$6,400	
2. Air fares - lecturers	@US\$400 x 3 persons	US\$1,200	
3. Local transportation	@US\$100 x 16 persons		US\$ 1,600
4. Per-diem (all students)	@US\$20 x 20 pers. x 47days	US\$18,800	
5. Accommodation (all students)	@US\$50 x 20 pers x 46 days	US\$46,000	
6. Accommodation for lecturers	@US\$80 x 3 x 12 days	US\$ 2,880	
7. Medical insurance for students	@US\$200 x 16 persons	US\$3,200	
8. Medical insurance for lecturers	@US\$200 x 3 persons	US\$600	
SUB-TOTAL 1		US\$79,080	US\$ 1,600
ii. TRAINING EXPENSES			
1. Honoraria for external lecturers	@US\$30 x 30 hours	US\$ 900	
2. Honoraria for internal lecturers	@US\$30 x 145 hours	US\$4,350	
3. Employment fee	@US\$20 x 5 pers x 20 hours	US\$ 2,000	
4. Transportation/ field visits	@US\$300 x 20 persons		US\$ 6,000
5. expandable supplies	@US\$23,300	US\$23,300	
6. meeting expenses	@US\$15 x 50 pers x twice	US\$1,500	
7. G.I. and certificate printing	@US\$20 x 20 sets + @US\$5 x 20 sets	US\$500	
8. Textbooks	@US\$50 x 20 copies	US\$ 1,000	
*9. Curriculum development and production	@US\$30 x 175hrs	US\$5,250	
10. Maintenance cost	@US\$200 x 20 persons		US\$ 4,000
11.others (communications)		US\$1,000	
SUB-TOTAL 2		US\$39,800	US\$10,000
Bench fees (10%)			US\$4,980
Total		US\$39,800	US\$14,980
GRAND-TOTAL		US\$118,880	US\$16,580
PORTION		87.8%	12.2%

9/7
SS
Shind

ANNEX IV

BREAK DOWN OF SOME BUDGETARY ITEMS

Item II.5 - Expendable Supplies

PCR reagents x 6 diseases @ \$800	=	\$4,800.00
Other reagents \$2,000	=	\$2,000.00
Tick dissection kits x 20 @ \$100	=	\$2,000.00
Other tick collection and processing materials	=	\$ 500.00
Rabbits for tick colony + feed	=	\$ 500.00
TBD Diagnostic kits (including ELISA)	=	\$4,500.00
Drugs and acaricides	=	\$2,000.00
Protective clothing	=	\$ 500.00
Teaching aids/ materials	=	\$6,000.00
Blood collection materials	=	\$ 500.00
Total		\$23,300.00

Handwritten signature and initials
SS
A. Hunt

LIST OF ATTENDANTS

1. **The Ministry of Finance & Economic Development:**
 Mr. S. S. Banda, Chief Economist
 Mr. Akapelwa, Senior Economist, Japanese Desk
 Ms. Chongola, First Economist
2. **The Ministry of Foreign Affairs:**
 Mr. A. M. Muchanga, Deputy Permanent Secretary
3. **Directorate Human Resources Development:**
 Ms. Lukhele, Assistant Director
 Ms. Chishimba Chanda, Senior Human Resource Development Officer
 Mr. Kateule Clement, Senior Human Resource Development Officer
 Mr. P. R. Mvula, Senior Human Resource Development Officer
4. **The University of Zambia (UNZA):**
 Prof. M. Chanda, Vice- Chancellor
 Prof. R. N. Sharma, Assistant Dean (Graduate Studies)
 Dr. H. Chitambo, Head, Paraclinical Studies
 Mr. D. L. Mungela, Senior Administrative Officer
 Mr. C. K. Siulapwa, Admin. Assistant to the Dean
 Mr. E. C. Chisala, Chief Technician
 Dr. A. S. Mweene, School Research Coordinator
 Dr. L. M. Tuchili, Assistant Dean, (Undergraduate)
 Dr. T. S. Mwanza, Head, Clinical Studies
 Dr. A. M. Nambota, Head, Disease Control
 Dr. K. Choongo, Lecturer, Biomedical Sciences
 Dr. N. J. Siulapwa, Head, Biomedical Sciences
 Dr. K. L. Samui, Dean, School of Veterinary Medicine
5. **The Japanese Preliminary Survey Team:**
 Dr. Yusuke TADA, Development Specialist,
 Japan International Cooperation Agency (JICA)
 Ms. Akemi Inoue, Staff, Africa Division, Regional Department, JICA
6. **Embassy of Japan in the Republic of Zambia:**
 Mr. Harumi SAKA, Second Secretary
7. **JICA Zambia Office:**
 Mr. Mitsuo ISHIKAWA, Resident Representative
 Mr. Naoki, ANDO, Assistant Resident Representative
 Mr. Lubinga, Programme Officer
 Ms. Joan Chungu, Training Coordinator

9/1
 SS
 Shumbe

南アフリカ共和国及びボツワナ国主要面会者

- 1 JICA南アフリカ共和国事務所
下村 則夫 所長
中村 俊之 所員
- 2 南アフリカ共和国プレトリア大学獣医学部
Prof. R.I. Coubrough
- 3 JICAボツワナ駐在員事務所
筒井 昇 所長
- 4 SADC事務局 狩野 伊知郎 専門家
- 5 ボツワナ共和国農業省獣医研究所(veterinary Laboratory)
Dr.Asuanfu/Raipoledi
- 6 ボツワナ共和国農業省畜産局 (SADC畜産分野調整担当)
Dr. RABOROKGWE
Dr. FANIKISO

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE

RECORD OF THE 1st MEETING HELD BETWEEN THE JICA MISSION AND MEMBERS OF THE SCHOOL DEAN'S ADVISORY COMMITTEE AT 14:15 HOURS ON 24TH JUNE, 1999 IN THE DEAN'S COMMITTEE ROOM

PRESENT

Dr. K. L. Samui	-	Chairperson, Dean
Prof. Yasuke Tada	-	Co-Chairperson, JICA - Mission Leader
Mr. N. Ando	-	JICA Zambia Office
Ms. Akemi Inoue	-	JICA Mission
Prof. R. N. Sharma	-	Assistant Dean (PG)
Dr. L. M. Tuchili	-	Assistant Dean (UG)
Dr. N. J. Siulapwa	-	Head, Department of Biomedical Sciences
Dr. H. Chitambo	-	Head, Department of Paraclinical Studies
Dr. A. Nambota	-	Head, Department of Disease Control
Dr. T. S. Mwanza	-	Acting Head, Department of Clinical Studies
Dr. A. Mweene	-	Department of Disease Control
Prof. G. S. Pandey	-	Department of Disease Control
Dr. K. Choongo	-	Department of Biomedical Sciences
Mr. J. Lubinga	-	JICA Zambia Office
Ms. J. Chungu	-	JICA Zambia Office
Mr. E. Chisala	-	Acting Chief Technician, Central Services and Supply
Mr. D. L. Mungela	-	Senior Admin. Officer, School of Veterinary Medicine
Mr. C. K. Siulapwa	-	Admin. Assistant to the Dean, School of Veterinary Medicine

1. CHAIRPERSON'S WELCOME REMARKS

- 1.1 The Chairperson warmly WELCOMED members of the Japanese Mission to the School of Veterinary Medicine. He further, HOPED that the discussion would be concluded fruitfully.

2. INTRODUCTORY REMARKS

- 2.1 The Co-Chairperson, Prof. Tada, presented a briefing on the *Third Country Training Programme* as follows:

- (a) that the last JICA Expert in the School had been Dr. Kadohira. EXPLAINED that even though JICA had not sent any one to replace her, JICA under the auspices of the Japanese Government, was still considering avenues for further cooperation.
- (b) INFORMED that the recommendations that the *Third Country Training Programme* should be conducted at the School of Veterinary Medicine, UNZA, had been approved by the Japanese Government. The programme was scheduled to start within this fiscal year and would run for the next five years. The details on the training programme would be reviewed during the next consecutive meetings.
- (c) INFORMED that this was the first time a *Third Country Training Programme* was being conducted in Zambia and he looked forward to fruitful discussions.

2.2 The Chairperson INFORMED that there were mainly three issues concerning the *Third Country Training Programme*.

- (a) Capacity of UNZA to implement the training Programmes
- (b) Contents of the Programme
- (c) Frame work of the Training Programme

EXPLAINED that the folders that had been circulated to members contained:

- (a) General Information
- (b) Record of Discussions
- (c) Notes on what had been happening since the last JICA/Japanese Mission visit in October, 1998.
- (d) Papers on the activities done within the School with other links.

He HOPED that the visitors would find the information very useful.

3. EXPLANATION OF THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

3.1 The Co-Chairperson EXPLAINED the following about the *Third Country Training Programme*:

- (a) that Japan in this case was the first country, Zambia which was the host was the second country and other countries which participated in the programme from SADC and other countries as third countries. Zambia would normally invite participants (both local and foreign) then JICA would provide Experts and funds to implement the training programme.

JICA started the *Third Country Training Programme* in 1995 and has since extended this scheme to various countries and assisted in the training of staff in Japan itself.

- (b) because of the nature of the training programme, primary beneficiaries were normally participants from neighbouring countries. Zambia as a host country would receive technical and financial assistance from JICA. This assistance would greatly enhance capacity building in the School.
- (c) the training programme would emphasized the South-South cooperation where countries with similar conditions would share their own experiences with the assistance from JICA.
- (d) JICA continues to stress on mutual contribution and cooperation in the training programme. That it must not be one sided but that both the host country and JICA should contribute. The factor of cost sharing was regarded as important.

However, JICA realised that institutions in Third World Countries, in particular Zambia, faced grave financial constraints. This is what has made JICA make exceptions for countries like Zambia.

The Co-Chairperson expected Zambia to contribute in future. PROMISED to do his best to support the School in the organization of the *Third Country Training Programme*.

- (e) INTIMATED that perhaps the reason why JICA chose Zambia was the fact that there was a strong attachment between the School of Veterinary Medicine, UNZA and JICA. EMPHASIZED the need for close collaboration with institutions both within and outside Zambia.

4. COMMENTS

- 4.1 WONDERED why Zambia as a host country should not be the primary beneficiary of the training programme but neighbouring countries.

EXPLAINED that it was the regulation of the scheme that the host country should make a contribution towards neighbours with limited participation by its own nationals.

- 4.2 SUGGESTED that since Zambia as a host country was also a member of SADC, its participation in the training programme should have been automatic.

EXPLAINED that Zambia as a host country had an advantage (receiving financial and technical assistance). This explained why it was allowed only few participants.

- 4.3 THANKED the JICA/Japanese Mission and EMPHASIZED that it was gratifying and a great honour for the School of Veterinary Medicine to be chosen as the host nation for the training programme.

5. THIRD COUNTRY TRAINING IN OTHER COUNTRIES

- 5.1 The Chairperson wanted to find out how successful the training programme had been in Indonesia and Kenya.

INFORMED that it was easier in Indonesia, because of the nearness and close similarities between Indonesia and Japan. EXPLAINED that more problems were found in African countries such as Kenya due mainly to financial constraints and cultures of the people.

- 5.2 The Co-Chairperson was ASKED to explain the criteria used in choosing the host country for the training programme.

EXPLAINED that they mainly hinged on the past relations especially of cooperation. Emphasized that the choice of Zambia stemmed from the long mutual cooperation between Zambia and Japan.

- 5.3 The Chairperson EXPRESSED his gratitude to JICA for choosing the School and maintained that it was gratifying to see Zambia and Japan continuing in that relationship of cooperation.

However, he INFORMED that problems were still there but the School was trying its best to continue running under the prevailing difficult conditions.

INFORMED further that the School had the required capacity to implement any programme and that the School had equally maintained the required international standards.

6. EXPRESSED interest in the papers containing *Record of Discussions and Budget Estimates* for the training programme. EXPLAINED that certain specific issues should be discussed in detail. The first discussion on *Record of Discussions* papers brought out the following:

- 6.1 that the signatories of the document containing the *Third Country Training Programme* would be:

- (a) the Vice-Chancellor, University of Zambia
- (b) Representative of the Ministry of Finance and Economic Development
- (c) Resident Representative JICA Zambia Office
- (d) that the title of the course should remain the same and be entitled as,

Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases.

- 6.2 After a few corrections on the *Record of Discussions* and the first page of the *Attached Document*, members AGREED that there was no fixed date for starting the training programme but it was expected to start soon after all necessary requirements had been prepared and done.

The Meeting closed at 15:35 hours. This continues on 25th June, 1999 at 09:00 hours.

Chairperson: Ann Date: 29/6/99

Co-Chairperson: [Signature] Date: 29 June 1999

Secretary: [Signature] Date: 29. JUN 1999

THE UNIVERSITY OF ZAMBIA

SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE

RECORD OF THE 2nd MEETING HELD BETWEEN THE JICA MISSION AND MEMBERS OF THE SCHOOL DEAN'S ADVISORY COMMITTEE ON 25TH JUNE, 1999 FROM 09.00 HOURS TO 11.25 HOURS AND FROM 14.15 HOURS TO 16.05 HOURS IN THE DEAN'S COMMITTEE ROOM.

PRESENT

Dr. K. L. Samui	-	Dean, Chairperson
Prof. Yasuke Tada	-	Co-Chairperson, JICA Mission Leader
Ms. Akemi Inoue	-	JICA Mission
Prof. R. N. Sharma	-	Assistant Dean (PG)
Dr. L. M. Tuchili	-	Assistant Dean (UG)
Dr. N. J. Siulapwa	-	Head, Department of Biomedical Sciences
Dr. A. Nambota	-	Head, Department of Disease Control
Dr. H. Chitambo	-	Head, Department of Paraclinical Studies
Dr. T. S. Mwanza	-	Acting Head, Department of Clinical Studies
Dr. A. Mweene	-	Department of Disease Control
Prof. G. S. Pandey	-	Department of Disease Control
Dr. K. Choongo	-	Department of Biomedical Sciences
Ms. J. Chungu	-	JICA Zambia Office
Mr. E. Chisala	-	Acting Chief Technician, Central Services and Supply
Mr. D. L. Mungela	-	Senior Admin. Officer, School of Veterinary Medicine
Mr. C. K. Siulapwa	-	Admin. Assistant to the Dean.

1. OPENING REMARKS

- 1.1 The Co-Chairperson INFORMED that the JICA Mission had paid a courtesy call on the Ministries of Finance and Economic Development, Foreign Affairs and the Department of Human Resources at Cabinet Office on 24th June, 1999. Further INFORMED that the advice received was that the document on *General Information* on the training Programme would be required in SADC States and that this document could best be distributed by *Zambian Diplomatic Missions* with the assistance of JICA offices in these states.

2. TENTATIVE CURRICULUM

- 2.1 The Chairperson INFORMED that the Curriculum under discussion was a draft which required refinement for use in the first year. All other Curricula for consecutive years would be subjected to review.
- 2.2 The Curriculum on *Ticks and Tick-borne Diseases* for Japanese FY 1999 was presented as follows:
- a) That the framework used was borrowed from JICA Mission.. There were no modifications made to it apart from the dates and days that were missing. This was accepted.

- b) Referred the Meeting to *Annex II, List of Resource Persons (Lecturers) for the Course*. ADVISED that the programme should attract a wider participation from lecturers in the region which would strengthen regional cooperation.

EXPLAINED that in fact, two JICA Experts had been invited together with other external experts from the Region.

The Co-Chairperson ENCOURAGED wider participation for full utilization of resources. AGREED to dispatch only one Japanese Expert during the first year.

- d) AGREED that the Curriculum was very necessary and practical. SUGGESTED that the School should not hesitate in future to ask for experts through JICA whenever need arose.

3. BUDGET ESTIMATES FOR JFY 1999

- 3.1 The Co-Chairperson INFORMED that the *School Budget (Annex III)* for the training programme exceeded the JICA Budget for the same by far. JICA's Budget was US \$80, 000 while the School Budget stood at US\$ 162, 085.

AGREED that *the Budget Estimates* should be scrutinized, looking more closely at:

- a) Invitation Expenses (I)
- b) Training Expenses (II).

CAUTIONED that there could be a good reason why the Budget was necessary. However, INFORMED that JICA expected a budget similar to the Kenyan experience.

- 3.2 NOTED that the number of participants (No. 3, item under G. I.) including those from Zambia would be *twenty (20)*.

AGREED that the number of participants from Zambia would be 25% of the total number of participants from countries within the Region. This meant that Zambia would *select four (4)* and *get sixteen (16)* from the SADC Region. Further AGREED that the host country would decide which country would participate.

At 11.25 hours the Meeting was adjourned to 14.15 hours .

- 3.3 The following were corrections and sentiments on the *Budget Estimates*:

a) Invitation Expenses under Annex III (I)

- i) on item 1, @ US\$ 400X15 persons to read @ US\$ 400X16 persons.
- ii) on item 3, @ US\$ 100X15 persons to read, @ US\$ 100X16 persons.
- iii) on item 4, @ US\$ 30X20pers.X46 to read, @ US\$ 20X20pers.X47 days.
- iv) on item 5, @ US\$ 50X20 pers.X47 to read, @ US\$50X20pers.X46 days.
- v) Item 9, *Publicity Cost*, was deleted in part. JICA would assist in the dissemination of G. I. and other information abroad using diplomatic channels. Also, deleted *Travel Costs* but maintained that JICA would pay for *Communications* at a cost of US\$1, 000. This should be enfolded within item 10, *Others*.
- vi) *Accommodation for lecturers US\$ 80 x 3 x 12 days.*

b) Training Expenses under Annex III (II)

- i) item 1, @ US\$ 50X30 hours to read, @ US\$ 30X30 hours.

- ii) item 2, @ US\$ 50X145 hours to read, @ US\$ 30X145 hours.

JICA EXPLAINED that the regulation stated that JICA would not pay local experts any honoraria for participating because Zambia was the host country. The same experience existed in Kenya. Further EXPLAINED that even if JICA had to pay, the number of hours (145) was too high..

The Chairperson EXPLAINED that it would be a necessary incentive to pay local experts. REMINDED that presently, lecturers were paid for extra load/work and viewed the *Third Country Training Programme* as no exception.

After a lengthy discussion, JICA Mission ADVISED that the matter would be taken up with JICA Headquarters.

- iii) on item 3, @ US\$ 50X5 pers X10X 10 to read, @ US\$ 20X5persX20 hours.
iv) on item 5, @ US\$ 20, 000 to read @ US\$ 23, 300.

AGREED that the following under item II.9 should be included under *Expendable Supplies* but be enfused within *Teaching aids/materials*:

1. stationery (paper, toner, printer cartridges etc.)

Further DECIDED to delete *Humidifier with Thermogramme*.

- v) The Zambian side maintained that item 9: Curriculum Development and Production should be given serious consideration. On the other, the JICA Mission EXPLAINED that under the current JICA regulations, this was not possible. However, this matter would be discussed further at JICA Headquarters.
- vi) On item 10, *Others (Maintenance cost)*, this should encompass *Communications* under former *Publicity Cost*. This was increased to US\$ 1, 000.
- vii) On *Bench Fees (10%)*, AGREED that the School of Veterinary Medicine would absorb the cost.

4. CLOSE OF THE MEETING

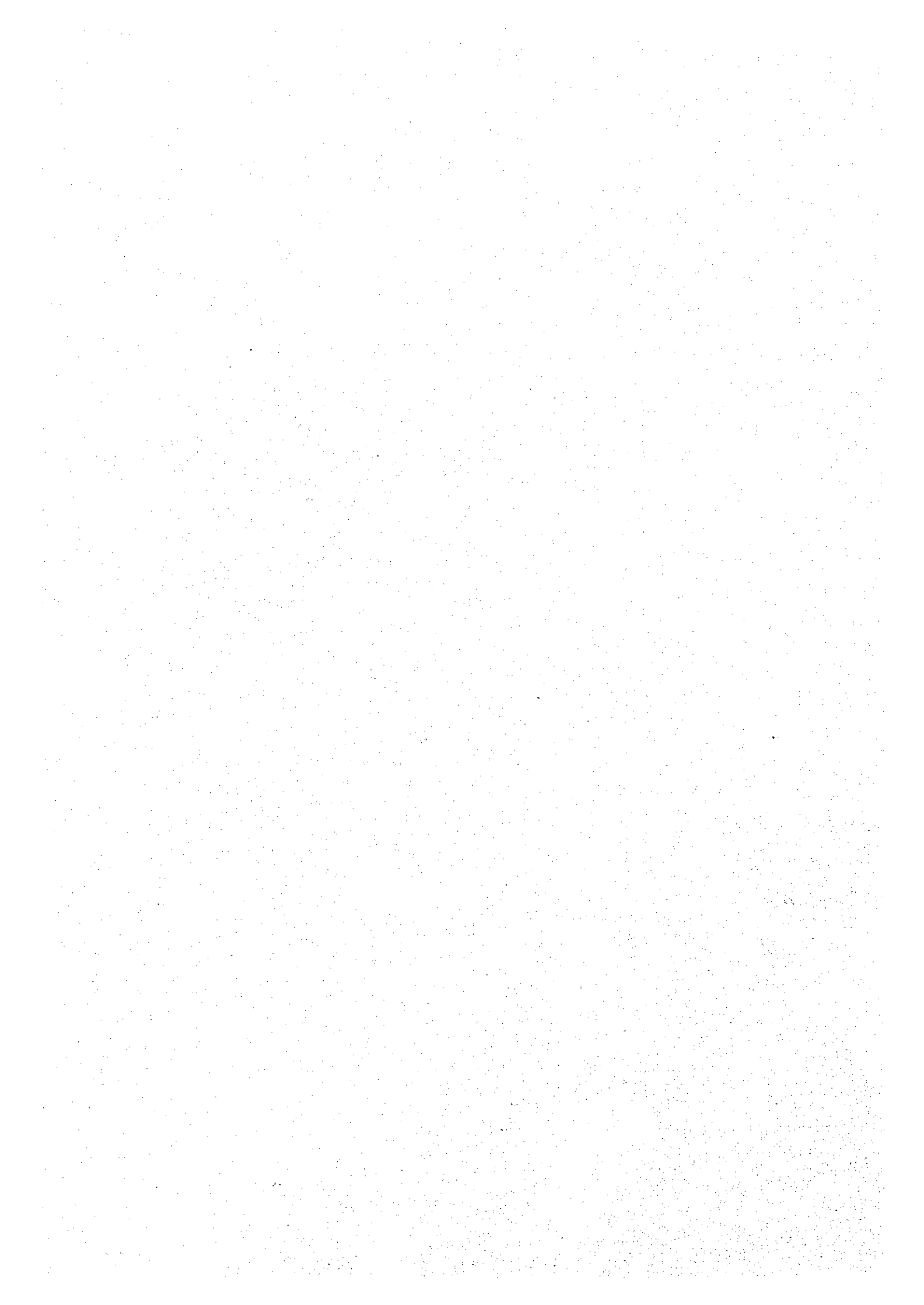
- 4.1 The Chair THANKED the two groups for having had a fruitful discussion and adjourned the meeting to Monday 28th June, 1999 at 08.30 hours. The meeting was closed at 16.05 hours.

Chairperson: Aduri Date: 29/6/99

Co-Chairperson: Jimbete Date: 29 June 1999

Secretary: Jh Date: 29 June 1999

3. 1999 年度 G. I. (案)
(経費(案)含)



TRAINING PROGRAMME ON "DIAGNOSIS, CONTROL AND PREVENTION OF TROPICAL LIVESTOCK DISEASES".

GENERAL INFORMATION, MODE OF APPLICATION AND REQUIREMENTS

I. COURSE OUTLINE:

1. Introduction:

The Government of the Republic of Zambia in conjunction with the Japan International Cooperation Agency (JICA) are to start a training programme on the **Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases**. The programme is intended mainly for the SADC member states. The training programme will begin during the last quarter of 1999 by the Samora Machel School of Veterinary Medicine, University of Zambia (SVM-UNZA).

2. Duration of the Courses:

The Programme will consist of a series of courses as follows:

Ticks and Tick-borne diseases
Zoonoses
Trans-border diseases
Infectious and Emerging Poultry diseases
Wildlife and Fish diseases

And, the first of these courses to be conducted will be "Ticks and Tick-borne diseases - Acarology, Diagnosis, Epidemiology, Control and Prevention.

The duration of the Courses will be approximately forty five (45) days and the Course for fiscal year 1999/2000 will be held during the last quarter of 1999.

3. Participants:

The maximum number of participants will be twenty (20), drawn mainly, from all SADC member countries.

4. Purpose:

The purpose of the courses is to provide the participants with an opportunity to improve their knowledge and skills in the field of Diagnosis, Control and Prevention of Tropical Livestock Diseases and, through the resultant increased capacity to deal with livestock health problems, improve the socio-economic status of the people in the participants' own countries.

5. Objectives:

At the end of the courses, the participants are expected to have:

1. Improved knowledge of the natural histories and epidemiology of the respective major livestock diseases in SADC countries;
2. Improved capacity to correctly diagnose the major livestock diseases;
3. Acquired sufficient practical skills and knowledge of control and preventive techniques generally and of the said diseases.

6. Programme:

- (1) The outline of the programme is shown in Annex 1.
- (2) The course will be conducted in English.

7. Training Venue:

The training venue will be at the Samora Machel School of Veterinary Medicine, University of Zambia (UNZA).

8. Certificate:

- i) Participants who successfully complete the course will be awarded a certificate by JICA/UNZA.
- ii) Participants who do not complete the course successfully will be awarded a certificate of attendance by JICA/UNZA.

9. Language of medium

The course will be conducted in English

II. CONDITIONS FOR APPLICATION:

1. Qualification of Applicants:

The Training Programme is meant for veterinarians working in the field as well as in training, diagnostic and research centres and institutions. However, staff working in veterinary colleges, universities, research institutes and other related public institutions and have a degree in veterinary science may apply. The requirements for participants are as follows:-

1. to be nominated by their respective Governments,
2. to be presently engaged, or expected to be engaged in the future in the diagnosis, control and prevention of livestock diseases in their respective countries
3. to be sufficiently qualified as stated above and,
4. to be in good health, both physically and mentally, in order to complete the Course.

2. Application:

1. Each course will be announced as it becomes available. Applications in a prescribed format together with an abstract of a country report on the specific **Major Livestock Disease Control Situation** should be filled in duplicate by the applicant and one copy returned directly to SVM, UNZA and the other copy through diplomatic channels not later two (2) months before commencement of the specific course. The whole package should include a short CV and a certified copy of the highest academic qualification.
2. SVM-UNZA on behalf of the Government of the Republic of Zambia will inform the nominees, directly and through diplomatic channels not later than one (1) month before commencement of the specific course.

3. Country Report

The participants invited are expected to submit, on arrival, type written detailed country reports on the specific Major Livestock Disease Control Situation in their respective countries

III. ALLOWANCES AND EXPENSES:

1. JICA will provide economy-class air travel return tickets by Prepaid Ticket Advice (PTA) to the participants.
2. Participants are responsible for any local transport and accommodation expenses in their countries.
3. A living allowance of US \$ 30 per day will be provided during the course to all participants. This allowance will cover local transportation and other daily personal expenses.
4. JICA will provide medical insurance for the participants from outside Zambia during their stay in Zambia.
5. The dependant(s) of participants are not entitled to the above allowances. Therefore, participants are discouraged from bringing any dependant(s).

IV. ACCOMMODATION:

Participants will be accommodated on campus (either at the Common Wealth Youth Centre or the University's Marshland Village).

V. OTHER INFORMATION:

1. The climate in Lusaka is tropical, requiring simple clothing. However, due to the relatively high altitude, openness of the terrain surrounding the City and the fact that it would be rainy season during the courses,

- the climate may become quite too cool occasionally and therefore, participants are advised to bring some warm clothing.
2. SVM -UNZA is about 25 Km from the International Airport along the road leading to the City centre (see diagram). At the campus, facilities such as photocopying, postal, fax and typing services are available. In addition there are banking services, sports facilities, a book shop, mini-market and a health centre.
 3. Participants are required to arrive in Zambia on the date designated by the University after confirmation of acceptance as mentioned above. However, the final date will be confirmed by the PTA sent to the participants.
 4. On arrival at Lusaka International Airport, the participants are requested to comply with the following arrival procedures:
 - i. When quarantine, immigration and customs clearance procedures have been completed, the participants will be met by an SVM official carrying a placard with the inscription "JICA- UNZA".
 - ii. Those arriving on flights other than originally booked, should inform the SVM-UNZA beforehand and on arrival should make contact with SVM-UNZA telephone number 293727. Please endeavour to arrive during the day only.
 5. Participants are required to strictly observe the laws of Zambia.
 6. Participants are required to strictly observe the Course schedule.
 7. Applications to extend the period of stay will not be accepted.
 8. Participants are requested to follow the return trip schedule designated by JICA / SVM-UNZA.
 9. Further information concerning the Course is available from SVM-UNZA

VI. CONTACT:

The Dean
Samora Machel School of Veterinary Medicine
University of Zambia
Great East Road Campus
P. O. Box 32379, Lusaka, ZAMBIA.

TEL: 260-1-293727

FAX: 260-1-293727/ 253952

Email: dean@vet.unza.zm

ANNEX I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE "TICKS AND TICK-BORNE DISEASES FOR JAPANESE FY 1999

Date	Day	Subject (necessary days)	Description
		<i>Arrival</i>	<ul style="list-style-type: none"> -Pick-up from the airport -Accommodation/ Welcome reception
		Registration and orientation (1 day)	<ul style="list-style-type: none"> -Briefing on course program -Overview of the institution
		Country reports (2 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Participants' presentations on Tick-borne disease and control situation in respective countries. -General discussion
		Acarology (5 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Bionomics (biology, ecology, distribution) -Field trip for tick collection -Laboratory examination/ identification -Host-tick interactions, immunology/ resistance -Control
		Theileriosis and babesiosis (10 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention -Latest technology for diagnosis/ control (PCR, Vaccines, Transgen model, etc)
		Other important tick-borne diseases (10 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Bacterial, -Rickettsial, -Viral, -Protozoan : Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention; -Field trip
		Communication and extension (2 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Inter-personnel relations, Public relations, -Extension activities
		Community based/ Participatory Approach for disease control and prevention (3 days)	<ul style="list-style-type: none"> General discussion Study tour
		Course evaluation (2 days)	<ul style="list-style-type: none"> Evaluation report Closing ceremony
		Departure of participants	Drop at the airport

ANNEX II

LIST OF RESOURCE PERSONS FOR THE COURSE "TICKS AND TICK-BORNE DISEASES"

COURSE CONTENT	RESOURCE PERSON and ADDRESS
Acarology	<p>Dr. E.T. Mwase, PhD (Entomology) Department of Paraclinical Studies, SVM-UNZA</p> <p>Dr. S. Mwangala, PhD (Entomology) National Council for Scientific Research, Lusaka, Zambia.</p>
Theileriosis and Babesiosis	<p>Dr. A.M. Nambota, MSc (Protozoology) Department of Disease Control, SVM-UNZA</p> <p>Prof. C. Sugimoto, PhD (Parasitology) Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University.</p>
Other Important Tick-borne diseases	<p>Dr. A.M. Nambota, MSc (Protozoology)</p> <p>Dr. K Katakura, PhD (Parasitology)</p> <p>Dr. L.M. Tuchili, PhD (Bacteriology) Department of Disease Control, SVM-UNZA</p>
Communication and Extension	<p>Prof. G.S. Pandey, PhD Department of Disease Control, SVM-UNZA</p> <p>Mr. Given Bwalya, ZL&L, Lusaka, Zambia</p> <p>Dr. G. Zyambo, Herd Immunity Programmes Ltd, Lusaka, Zambia</p>
Community based/ Participatory Approach to disease control and prevention	<p>Dr. K.L. Samui, PhD (Epidemiology & Preventive Medicine), SVM-UNZA</p>

ANNEX III

BUDGET ESTIMATE FOR JFY 1999 TO BE BORNE BY THE GOVERNMENT
OF JAPAN AND THE REPUBLIC OF ZAMBIA (IN US\$)

NO.	ITEMS OF EXPENSES	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE	ZAMBIAN SIDE
1. INVITATION EXPENSES				
1	Air fares (students)	@ US \$400 × 15 persons	6,000	
2	Air fares (Lecturers)	@ US \$400 × 3 persons	1,200	
3	Local transportation	@ US \$100 × 15 persons		1,500
4	Per-diem (all students)	@ US \$30 × 20 × 46 days	27,600	
5	Accommodation (all students)	@ US \$50 × 20 × 46 days	46,000	
6	Accommodation for lecturers	@ US \$100 × 3 × 12 days	3,600	
7	Medical insurance for students	@ US \$200 × 15 persons	3,000	
8	Medical insurance for lecturers	@ US \$200 × 3 persons	600	
9	Publicity cost	@ US \$10,000	10,000	
SUB TOTAL 1			98,000	1,500
2. TRAINING EXPENSES				
1	Honoraria (external lecturers)	US \$50 × 30 hours	1,500	
2	Honoraria (internal lecturers)	US \$50 × 145 hours	7,250	
3	Employment fee	US \$50 × 5 × 10 hours	2,500	
4	Transportation/field visits	US \$100 × 20		2,000
5	Expendable supplies	US \$20,000	20,000	
6	Meeting expenses	US \$50 × 50 persons × twice	5,000	
7	G.I. and Certificate printing	4 × 20 sets + 1 × 20 sets	100	
8	Curriculum development and production	US \$15,000	15,000	
9	Text books	US \$50 × 20 copies	1,000	
10	Others (maintenance cost)	@ US \$100 × 20 persons	2,000	
SUB TOTAL 2			54,350	2,000
Totals			152,350	3,500
Bench fees (10%)			15,235	
GRAND TOTAL			167,585	3,500

ANNEX III

**BUDGET ESTIMATE FOR JFY 1999 TO BE BORNE BY THE
GOVERNMENTS OF JAPAN AND THE REPUBLIC OF ZAMBIA**

ITEMS OF EXPENSE	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE	ZAMBIAN SIDE
I. INVITATION EXPENSES			
1. Air fares - students (round trip)	@ US\$400 x 16 persons	US\$6,400	
2. Air fares - lecturers	@US\$400 x 3 persons	US\$1,200	
3. Local transportation	@US\$100 x 16 persons		US\$ 1,600
4. Per-diem (all students)	@US\$20 x 20 pers. x 47days	US\$18,800	
5. Accommodation (all students)	@US\$50 x 20 pers x 46 days	US\$46,000	
6. Accommodation for lecturers	@US\$80 x 3 x 12 days	US\$ 2,800	
7. Medical insurance for students	@US\$200 x 16 persons	US\$3,200	
8. Medical insurance for lecturers	@US\$200 x 3 persons	US\$600	
SUB-TOTAL 1		US\$79,000	US\$ 1,600
II. TRAINING EXPENSES			
1. Honoraria for external lecturers	@US\$30 x 30 hours	US\$ 900	
2. Honoraria for internal lecturers	@US\$30 x 145 hours	US\$4,350	
3. Employment fee	@US\$20 x 5 pers x 20 hours	US\$ 2,000	
4. Transportation/ field visits	@US\$300 x 20 persons		US\$ 6,000
5. expandable supplies	@US\$23,300	US\$23,300	
6. meeting expenses	@US\$15 x 50 pers x twice	US\$1,500	
7. G.I. and certificate printing	@US\$20 x 20 sets + @US\$5 x 20 sets	US\$500	
8. Textbooks	@US\$50 x 20 copies	US\$ 1,000	
9. Curriculum development and production	US\$5,250	US\$5,250	
10. Maintenance cost	@US\$200 x 20 persons		US\$ 4,000
11.others (communications)		US\$1,000	
SUB-TOTAL 2		US\$39,800	US\$10,000
Total		US\$118,800	US\$11,600
Bench fees (10%)			US\$13,040
GRAND-TOTAL		US\$118,800	US\$24,640
PORTION		82.8%	17.2%

ANNEX IV

BREAK DOWN OF SOME BUDGETARY ITEMS

Item II.5 - Expendable Supplies

PCR reagents x 6 diseases @ \$800	=	\$4,800.00
Other reagents \$2,000	=	\$2,000.00
Tick dissection kits x 20 @ \$100	=	\$2,000.00
Other tick collection and processing materials	=	\$ 500.00
Rabbits for tick colony + feed	+	\$ 500.00
TBD Diagnostic kits (including ELISA)	=	\$4,500.00
Drugs and acaricides	=	\$2,000.00
Protective clothing	=	\$ 500.00
Teaching aids/ materials	=	\$6,000.00
Blood collection materials	=	\$ 500.00
Total		\$23,300.00

4. 2000年～2003年度研修テーマ(案)

**TENTATIVE CURRICULUM OUTLINE OF THE COURSE
"ZONNOSES" FOR JAPANESE FY 2000**

DATE	DAY	SUBJECT (necessary days)	DESCRIPTION
		Arrival	-Pick up from the airport -accommodation/ welcome reception
		Registration and orientation (1 day)	-Briefing on course programme -Overview of the institution
		Country reports (2 days)	-Participants' presentations on zoonoses situation in their respective countries -general discussion
		Introduction of the course (3 days)	-Definition of zoonoses -Classification -Significance -Factors affecting the spread of zoonoses -General principles for prevention and control of zoonoses -Guidelines on disinfection in animal husbandry for prevention and control of zoonoses -Disposal of animal carcasses and by- products
		Bacterial zoonoses (9 days)	-Aetiology, epidemiology, prevention and control -Anthrax -TB -Brucellosis -Salmonellosis -Campylobacteriosis -Leptospirosis -Bubonic plague -Laboratory practicals
		Parasitic zoonoses (5 days)	-Aetiology, epidemiology, prevention and control -Cystosomiasis -Sarcocystosis (T.sarginata, T.solium) -Trypanosomiasis (Nagana) -Trichinellosis

	<ul style="list-style-type: none"> -Hydatidosis -Laboratory practicals
Viral zoonoses (5 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Aetiology, epidemiology, prevention, control -Rabies -Rift valley fever (RVF) -Ebola -Haemorrhagic fevers -Influenza -Laboratory practicals
Fungal zoonoses (3 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Aetiology, epidemiology, prevention, control -Candida -Dermatomycosis -Cryptococcosis -Laboratory practicals
Rickettsial and Chlamydial zoonoses (1 day)	<ul style="list-style-type: none"> -Aetiology, epidemiology, prevention, control -Q-fever -Psittacosis
Abattoir and milk processing plant visits (4 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Visit to a rural abattoir -Visit to an urban abattoir -Visit to a milk processing plant -Visit to ZAMBEEF abattoir
Course evaluation (2 days)	<ul style="list-style-type: none"> -Evaluation report -Closing ceremony
Departure of participants	<ul style="list-style-type: none"> -Drop at the airport

LIST OF RESOURCE PERSONS FOR THE COURSE "ZOOZOSES"

COURSE CONTENT	RESOURCE PERSON AND ADDRESS
Course introduction	-Prof. Veary (PhD) University of Pretoria -Dr. L.M. Tuchili (PhD) UNZA -Prof. R. Kazwala (PhD) Sokoine University of Agriculture
Bacterial zoonoses	-Dr. L.M. Tuchili (PhD) UNZA -Dr. B.Muma (MSc) UNZA -Prof. C. Kaneuchi (PhD) Azabu University of Zimbabwe
Viral zoonoses	-Dr. A. Mweene (PhD) UNZA -Prof. H. Kida (PhD) Hokaido University -Dr. T. Mwanza (PhD) UNZA
Parasitic zoonoses	-Dr. I. Phiri (Ph.D) UNZA -Dr. S. Mukaratirwa (PhD) University of Zimbabwe -Dr. H. Chitambo (PhD) UNZA
Fungal zoonoses	-Dr. B. Hang'ombe (MSc) UNZA -Dr. Mwansa (PhD) UTH -Dr. T. Mwanza (PhD) UNZA
Rickettsial and chlamydial zoonoses	-Prof. Takashima (PhD) HokaidoUniveristy

**BUDGET ESTIMATE FOR JFY 2000 TO BE BORNE BY THE GOVERNMENT
OF JAPAN AND TH REPUBLIC OF ZAMBIA (IN USS)**

NO.	ITEMS OF EXPENSES	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE (US \$)	ZAMBIAN SIDE (US \$)
1. INVITATION EXPENSES				
1	Air fares (students)	@ US \$400 X 15 persons	6,000	
2	Air fares (Lecturers)	@ US \$400 X 3 persons	1,200	
3	Local transportation	@ US \$100 X 15 persons		1,500
4	Per-diem (all students)	@ US \$30 X 20 X 46 days	27,600	
5	Accommodation (all students)	@ US \$50 X 20 X 47 days	47,000	
6	Accommodation for lecturers	@ US \$100 X 3 X 12 days	3,600	
7	Medical insurance for students	@ US \$200 X 15 persons	3,000	
8	Medical insurance for lecturers	@ US \$200 X 3 persons	600	
9	Publicity cost	@ US \$7,000	7,000	
SUB TOTAL 1			96,000	1,500
2. TRAINING EXPENSES				
1.	Honoraria (external lecturers)	US \$50 x 30 hours	1,500	
2	Honoraria (internal lecturers)	US \$50 x 145 hours	7,250	
3	Employment fee	US \$50 x 5 x 10 hours	2,500	
4	Transportation/field visits	US \$300 x 20		6,000
5	Expendable supplies	US \$20,000	20,000	
6	Meeting expenses	US \$50 x 50 persons x twice	5,000	
7	G.I. and Certificate printing	4 x 20 sets + 1x 20 sets	100	
8	Text books	50 x 20 copies	1,000	
9	Curriculum development and production	US \$15,000	15,000	
10	Others (maintenance cost)	US \$200 x 20 persons		4,000
SUB TOTAL 2			51,350	10,000
TOTAL			147,350	11,500
Bench fees (10%)			14,735	
Grand Total			162,085	11,500
PORTION			93.4%	6.6%

**TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE "TRANS-BORDER
DISEASES FOR JAPANESE FY2001**

Date	Day	Subject (necessary days)	Description
		<i>Arrival</i>	<ul style="list-style-type: none"> - Pick-up from the airport - Accommodation/Welcome reception
		Registration and orientation (1 day)	<ul style="list-style-type: none"> - Briefing on course program - Overview of the institution
		Country reports (2 days)	<ul style="list-style-type: none"> - Participants' presentations on Trans-border diseases and control situation in respective countries. - General discussion
		Foot & Mouth Disease (5 days), CBPP (8 days)	<ul style="list-style-type: none"> - Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention Field trips
		Trypanosomiasis (8 days)	<p>Latest technology for diagnosis/control</p> <p>Regional approach</p> <p>Field trips</p>
		Other Cross-Border Diseases: African Swine Fever, East Coast Fever, Salmonella (10 days)	<ul style="list-style-type: none"> - Etiology, Epidemiology, Diagnosis, Control and Prevention <p>Field trip</p>
		Course evaluation (2 days)	<p>Evaluation report</p> <p>Closing ceremony</p>
		Departure of participants	Drop at the airport

ANNEX II

LIST OF RESOURCE PERSONS FOR THE COURSE "TRANSBORDER DISEASES"

COURSE CONTENT	RESOURCE PERSON and ADDRESS
Foot & Mouth Disease.	Dr. A.S. Mwene, PhD (Virology) Department of Disease Control, SVM-UNZA
Rinderpest	Dr. William Ogara, PhD Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi
CBPP	Dr. G. Zyambo, Herd Immunity Programmes Ltd, Lusaka, Zambia
Other Cross-Border Diseases (ASF, ECP, Salmonella?)	Dr. K.L. Samui, PhD (Epidemiology & Preventive Medicine), SVM-UNZA Dr. A.M. Nambota, MSc (Protozoology) Department of Paraclinical Studies, SVM-UNZA Prof. C. Sugimoto, PhD (Parasitology) Faculty of Veterinary Medicine, Hokkaido University.
Trypanosomiasis	Dr. Harrison Chitambo, PhD (Parasitology/Tryps), Department of Paracincial Studies, SVM-UNZA Dr. Peter van der Bosche, PhD RTTCP, Harare, Zimbabwe Dr. M. Eisler, PhD ILRI, Nairobi, Kenya

ANNEX III

BUDGET ESTIMATE FOR JFY 2001 TO BE BORNE BY THE GOVERNMENT
OF JAPAN AND THE REPUBLIC OF ZAMBIA

ITEMS OF EXPENSES	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE	ZAMBIAN SIDE
I. INVITATION EXPENSES			
1. Air fares - students (round trip)	@ US \$400 × 15 persons	US \$6,000	
2. Air fares - lecturers	@ US \$400 × 3 persons	US \$1,200	
3. Local transportation	@ US \$100 × 15 persons		US \$1,500
4. Per-diem (all students)	@ US \$30 × 20 × 46 days	US \$27,600	
5. Accommodation (all students)	@ US \$50 × 20 × 47 days	US \$47,000	
6. Accommodation for lecturers	@ US \$100 × 3 × 12 days	US \$3,600	
7. Medical insurance for students	@ US \$200 × 15 persons	US \$3,000	
8. Medical insurance for lecturers	@ US \$200 × 3 persons	US \$600	
9. Publicity cost	@ US \$8,200	US \$8,200	
SUB TOTAL 1		US \$97,200	US \$1,500
II. TRAINING EXPENSES			
1. Honoraria for external lecturers	@ US \$50 × 30 hours	US \$1,500	
2. Honoraria for internal lecturers	@ US \$50 × 145 hours	US \$7,250	
3. Employment fee	@ US \$50 × 5 pers × 10 hours	US \$2,500	
4. Transportation/Field visits	@ US \$300 × 20 persons		US \$6,000
5. Expendable supplies	@ US \$20,000	US \$20,000	
6. Meeting expenses	@ US \$50 × 50 pers × twice	US \$5,000	
7. G.I. and certificate printing	@ US \$4 × 20 sets + @ US \$1 × 20 sets	US \$100	
8. Text books	@ US \$50 × 20 copies	US \$1,000	
9. Curriculum development and production	US \$13,800	US \$13,800	US \$2,000
10. Others (maintenance cost)	@ US \$200 × 20 persons		US \$4,000
SUB TOTAL 2		US \$51,350	US \$12,000
TOTAL		US \$147,350	US \$13,500
Bench fees (10%)		US \$14,735	
GRAND TOTAL		US \$162,085	US \$13,500
PORTION		92.3%	7.7%

ANNEX IV

BREAK DOWN OF SOME BUDGETARY ITEMS

Item I.9 - Publicity Cost

Advertisements (both locally and abroad)	=	\$ 500.00
Communications (Telephone, Fax, etc)	=	\$ 500.00
<u>Travel costs (initial discussions)</u>	=	<u>\$7,200.00</u>
Total		\$8,200.00

Item II.5 - Expendable Supplies

PCR reagents x 6 diseases @ \$1,500	=	\$9,000.00
Other reagents \$1,000	=	\$1,000.00
Tick & Tsetse fly dissection kits x 20 @ \$100	=	\$2,000.00
Specimen collection and processing materials	=	\$ 500.00
Diagnostic kits	=	\$4,500.00
Drugs and acaricides	=	\$2,000.00
Protective clothing	=	\$ 500.00
<u>Blood collection materials</u>	=	<u>\$ 500.00</u>
Total		\$20,000.00

Item II.9 - Curriculum development and production

Development fees @ \$50 x 175 hours	=	\$8,750.00
Stationery (paper, toner, printer cartridge, etc)	=	\$3,550.00
Maintenance (office machinery)	=	\$ 600.00
<u>Printing x 30 @ \$30</u>	=	<u>\$ 900.00</u>
Total		\$13,800.00

ANNEX 1

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE "INFECTIOUS AND EMERGING POULTRY DISEASES" FOR THE JAPANESE FISCAL YEAR 2002

Date	Day	Subject: (necessary days)	Description
		Arrival	- Pick up from airport - Accommodation - Welcome reception
		Registration and orientation (1 day)	- Briefing on course program - Overview of the Institution
		Country reports (2 days)	- Participants' presentation on Poultry diseases and control situation in respective countries - General discussion
		Bacterial diseases (5 days)	- Epizootiology - Diagnosis - Prevention and Control - Postmortem examination
		Viral diseases (10 days)	- Epizootiology - Diagnosis - Prevention and Control - Postmortem examination
		Fungal diseases (1 day)	- Diagnosis - Prevention and Control
		Parasitic diseases (2 days)	- Epizootiology - Diagnosis - Prevention and Control
		Deficiency diseases (2 days)	- Diagnosis - Prevention and Control
		Miscellaneous diseases (3 days)	- Diagnosis - Prevention and Control
		Community and extension (4 days)	- Inter-personnel relations - Public relations - Extension activities
		Community based/Participatory approach for disease control and prevention (3 days)	- General discussion - Study tour/Farm visits
		Course evaluation (2 days)	- Evaluation report - Closing ceremony
		Departure of participants	- Drop at the airport

**LIST OF RESOURCE PERSONS FOR THE COURSE
"INFECTIOUS AND EMERGING POULTRY DISEASES"**

Course content	Resource person	Address
Introduction	Dr. M. I. Bhaiyat, Ph.D. (Pathology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
Bacterial diseases	Professor R. N. Sharma, Ph.D. (Pathology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
	Dr. L. M. Tuchili, Ph.D. (Bacteriology)	Department of Disease Control, School of Veterinary Medicine, UNZA
Viral diseases	Professor C. Itakura, Ph.D. (Avian Pathology)	Advanced Technology Development Center, Institute of Physical and Chemical Research (RIKEN), 2-1 Hirosawa, Wako-shi, Saitama, 351-01, Japan
	Dr. M. I. Bhaiyat, Ph.D. (Pathology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
Fungal diseases	Dr. B. M. Hangombe, M. Vet. Med. (Bacteriology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
Parasitic diseases	Dr. D. Phiri, M. Vet. Med.: (Helminthology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
Deficiency diseases	Professor R. N. Sharma, Ph.D. (Pathology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
	Dr. M. I. Bhaiyat, Ph.D. (Pathology)	
Miscellaneous diseases	Dr. M. I. Bhaiyat, Ph.D. (Pathology)	Department of Paraclinical Studies, School of Veterinary Medicine, UNZA
Community and extension	Dr. G. Kangali, BVM (Private practitioner)	Livestock Services Cooperative Society
	Dr. S. Singh, BVSc., DTVM (Private practitioner)	
Community based/ Participatory approach for disease control and prevention	Dr. K. L. Samui, Ph.D. (Epidemiology and Preventive Medicine)	Department of Disease Control, School of Veterinary Medicine, UNZA

N.B. As suggested in the initial proposal, an expert from Thailand shall be invited and depending on his/her specialty, the program shall be drawn up for his/her participation.

**BUDGET ESTIMATE FOR THE JAPANESE FISCAL YEAR 2002 TO BE BORNE
BY THE GOVERNMENTS OF JAPAN AND THE REPUBLIC OF ZAMBIA**

Items of expense		Breakdown	Japanese side	Zambian side
I	INVITATION EXPENSES	US \$	US \$	US \$
1	Airfares - Students (round trip)	@ 400 x 15 persons	6,000-00	
2	Airfares - Lecturers	@ 400 x 3 persons	1,200-00	
3	Local transportation	@ 100 x 5 persons		1,500-00
4	Per-diem (all students)	@ 30 x 20 x 46 days	27,600-00	
5	Accommodation (all students)	@ 50 x 20 x 47 days	47,000-00	
6	Accommodation for lecturers	@ 100 x 3 x 12 days	3,600-00	
7	Medical insurance for students	@ 200 x 15	3,000-00	
8	Medical insurance for lecturers	@ 200 x 3	600-00	
9	Publicity cost	7,000-00	7,000-00	
SUBTOTAL 1			US\$ 96,000-00	US\$ 1,500-00
II	TRAINING EXPENSES	US \$	US \$	US \$
1	Honoraria for external lecturers	@ 50 x 30 hours	1,500-00	
2	Honoraria for internal lecturers	@ 50 x 145 hours	7,250-00	
3	Employment fee	@ 50 x 5 x 10 hours	2,500-00	
4	Transportation/Field visits	@ 300 x 20 persons		6,000-00
5	Expendable supplies	10,000-00	10,000-00	
6	Meeting expenses	@ 50 x 50 persons x 2	5,000-00	
7	G. I. and Certificate printing	@ 4 x 20 sets 1 x 20 sets	100-00	
8	Textbooks	@ 50 x 20 copies	1,000-00	
9	Curriculum development and production	15,000-00	15,000-00	
10	Others (maintenance cost)	@ 200 x 20 persons		4,000-00
SUBTOTAL 2			US\$ 42,350-00	US\$ 10,000-00
TOTAL			US\$ 138,350-00	US\$ 11,500-00
Bench Fees			US\$ 13,835-00	
GRAND TOTAL			US\$ 152,185-00	US\$ 11,500-00
PROPORTION			93%	7%

**TENTATIVE BRIEF CURRICULUM OF THE COURSE "WILDLIFE
AND FISH DISEASES" FOR JAPANESE FY2003**

Date	Day	Subject (necessary days)	Description
		<i>Arrival</i>	<i>Pick-up from the airport Accommodation/Welcome Reception</i>
		Registration and orientation (1 day)	Briefing on the course programme, overview of the Institution
		Country reports (2 days)	Participants presentations on wildlife and fish diseases situations and control in respective countries, General Discussion
		General (2 days)	Role and importance of wildlife in the national economy and nutrition with emphasis in Southern Africa
		Wildlife Diseases (15 days)	Darting immobilisation and capture of different wildlife species for collection of specimens, treatment, diagnosis, translocation. Common diseases of wildlife (Mammals reptile, Rattitites) causing their mortality and morbidity particularly in South Africa both in National Parks and at the game ranches and their epidemiology, diagnosis, treatment prevention and control. Study tours.
		Fish diseases (13 days)	Importance of fish as a food for human. Etiology, epidemiology, clinical manifestations, pathology, diagnosis of common fish diseases of bacterial, viral and parasitic origin. Environmental pollutants and industrial effluents harmful to the fish population. Study tours.
		Course evaluation (2 days)	Evaluation report Closing ceremony
		Departure of Participants	Drop at the Lusaka Airport

**LIST OF RESOURCE PERSONS FOR THE COURSE
"WILDLIFE AND FISH DISEASES"**

COURSE CONTENT	RESOURCE PERSON AND ADDRESS
General Course Introduction	-Dr. L.M. Saiwana (PhD), DNPWS -Mr. H. Mwima (MSc), DNPWS -Prof. G.S. Pandey (PhD), UNZA
Wildlife Diseases	-Dr. A.M. Nambota (MSc), UNZA -Prof. G.S. Pandey (PhD), UNZA -Dr. A.K. Suzuki (PhD), NIES, Japan -Prof. J. Yasuda (PhD), Iwate Uni, Japan -Dr. K.I. Samui (PhD), UNZA -Prof. Meitzer (PhD), Uni. Pretoria
Fish Diseases	-Prof. H. Kodama (PhD), Osaka Uni. Japan -Dr. K.I. Samui (PhD), UNZA

**BUDGET ESTIMATE FOR JFY 2003 TO BE BORNE BY THE GOVERNMENT
OF JAPAN AND THE REPUBLIC OF ZAMBIA (IN US\$)
WILDLIFE AND FISH DISEASES**

NO.	ITEMS OF EXPENSES	BREAKDOWN	JAPANESE SIDE (US\$)	ZAMBIAN SIDE (US\$)
1. INVITATION EXPENSES				
1	Air fares (students)	@ US \$400 × 20 persons	8,000	
2	Air fares (Lecturers)	@ US \$400 × 3 persons	1,200	
3	Local transportation	@ US \$100 × 15 persons		1,500
4	Per-diem (all students)	@ US \$30 × 20 × 46 days	27,600	
5	Accommodation (all students)	@ US \$50 × 20 × 47 days	47,000	
6	Accommodation for lecturers	@ US \$100 × 3 × 12 days	3,600	
7	Medical insurance for students	@ US \$200 × 20 persons	4,000	
8	Medical insurance for lecturers	@ US \$200 × 3 persons	600	
9	Publicity cost	@ US \$7,000	7,000	
SUB TOTAL 1			99,000	1,500
2. TRAINING EXPENSES				
1	Honoraria (external lecturers)	US \$50 × 30 hours	1,500	
2	Honoraria (internal lecturers)	US \$50 × 145 hours	7,250	
3	Employment fee	US \$50 × 5 × 10 hours	2,500	
4	Transportation/field visits	US \$400 × 20		8,000
5	Expendable supplies	US \$30,000	30,000	
6	Meeting expenses	US \$50 × 50 persons × twice	5,000	
7	G.I. and Certificate printing	4 × 20 sets + 1 × 20 sets	100	
8	Text books	50 × 20 copies	1,000	
9	Curriculum development and production	US \$15,000	15,000	
10	Others (maintenance cost)	@ US \$200 × 20 persons		4,000
SUB TOTAL 2			61,350	12,000
TOTAL			160,350	13,500
Bench fees (10%)			16,035	
GRAND TOTAL			176,385	25,500
PORTION			85.55%	14.45%

JICA



LIB